

令和8年度予算第二特別委員会
【速報版】

令和8年3月9日
局別審査（にぎわいスポーツ文化局関係）

速報版

- ・この会議録は録音を文字起こしした初稿のため、誤字脱字がある場合があります。
- ・正式な会議録が作成されるまでの暫定的なもののため、今後修正されることがあります。
- ・正式な会議録が掲載された時点で速報版は削除されます。

横浜市会

にぎわいスポーツ文化局関係

午前10時00分開会

○小松範昭副委員長 ただいまから前回に引き続き予算第二特別委員会を開きます。

○小松範昭副委員長 それでは、にぎわいスポーツ文化局関係の審査に入ります。

○小松範昭副委員長 質問の通告がありますので、順次、これを許します。

なお、投影資料の使用の申出があったものについては、いずれもこれを許します。

それではまず、こがゆ康弘委員の質問を許します。（拍手）

○こがゆ康弘委員 国民民主党のこがゆです。よろしくお願いいたします。

今日のトップバッターということもありますので、最初に、局予算全体に関する項目、新たな中期計画に掲げる指標について伺います。

令和8年度予算は新たな中期計画に基づき策定されていると理解をしておりますが、その中でにぎわいスポーツ文化分野に関して観光やスポーツ・文化により、にぎわい・活力のあるまちだと市民が感じるかどうか、その実感があるかどうかという点が最上位の政策指標として掲げられています。一方、観光MICE、スポーツ、文化芸術の各施策は事業を実施することがストレートに市民の実感の向上につながるかどうか、大変この点が難しい分野であって、ともすれば事業の必要性すら問われかねません。

そこで、政策指標として掲げる観光やスポーツ・文化により、にぎわい・活力のあるまちに関して市民の実感を高めるための取組の考え方について伺います。

○足立にぎわいスポーツ文化局長 観光資源、スポーツ、文化イベントの磨き上げや市民の皆様の活動環境の充実を通じましてウェルビーイングの向上を図ります。あわせて観光客やイベント参加者の滞在時間の延長や宿泊促進に取り組み、市内経済の活性化につなげます。客観的なデータも活用し、にぎわい、活力をより感じられるよう質を高めながら施策を展開することで市民の実感の向上を目指してまいります。

○こがゆ康弘委員 観光客は市民ではない場合も多いですね。またスポーツや文化事業も市民だけを対象としているものではありませんから、観光施策をやったことで来街者が増える、あるいは消費額が増える。その結果、オーバーツーリズムになって、では本当に活力があつてよかつたと市民が実感するかどうか。実はスポーツ事業もそうですね。市外の人ばかり参加している。そうしたら本当に実感が感じられるかどうか。やはり市民の実感を高めるためには、市民自身の参加機会を増やしたり、市民生活の質の向上に資する施策を充実させるということが必要です。ぜひ事業の効果をしっかりと市民の皆さんに届くものにしていただくことを要望し、次の質問に移ります。

次に、GREEN×EXPO 2027と連動した都心臨海部のにぎわい創出の取組について伺います。

来年3月19日から開催されるGREEN×EXPO 2027には市内外また海外からも多くの来

訪者が見込まれています。せっかくGREEN×EXPO 2027会場へ来られた方が新横浜からそのまま新幹線で帰ってしまったり、羽田空港に直行してしまうということがなく、みなとみらいや関内関外地区などで横浜ならではの魅力を最大限味わっていただきたいと思います。そのためにもGREEN×EXPO 2027に行った後に都心臨海部にも行ってみたいと思えるような連携した取組を常に行うことが必要ではないでしょうか。

そこで、GREEN×EXPO 2027に向けた都心臨海部における切れ目のないにぎわい創出の考え方について伺います。

○足立にぎわいスポーツ文化局長 GREEN×EXPO 2027を横浜が全国から、そして世界から注目される絶好の好機と捉え、絶え間ないにぎわい創出に取り組み、来訪者の滞在時間の延長、宿泊促進につなげます。都心臨海部の魅力的な観光資源や水際線を活用したヨルノヨや花火などのさらなる磨き上げ、横浜美術館で企画する子供から大人まで楽しめる文化イベントなどを通じて常ににぎわいのある空間を創出していきます。

○こがゆ康弘委員 GREEN×EXPO 2027の開催による経済波及効果ですけれども、7310億円というふうには試算されています。都市部での連携事業によって、この波及効果をより一層高めていただきたいと思います。ここでスライドを御覧ください。（資料を表示）先週5日に開幕1周年前のイベントとして臨港パークで開催されたドローンショーです。このようなコンテンツもGREEN×EXPO 2027と連動した行きたくなる取組だと思いますので、ぜひ期間中に実施していただくことを期待いたします。また、こうした取組を一過性のものとしなないことも重要です。

そこで、GREEN×EXPO 2027と連動した取組で培った経験をGREEN×EXPO 2027閉幕後にもつなげていくべきと考えますが、見解を伺います。

○足立にぎわいスポーツ文化局長 GREEN×EXPO 2027閉幕後、上瀬谷エリアには新たな観光集客拠点を形成することを予定しております。この新たな拠点と都心臨海部の両方のにぎわいエリアの相乗効果を高めていくことが大変重要だと考えております。GREEN×EXPO 2027と連動した取組で培った経験を生かし、横浜経済のより一層の活性化につなげていきたいと考えております。

○こがゆ康弘委員 ぜひこれからも横浜のレガシーとして残せるような、将来を見据えて取り組んでいただくことを要望いたします。

次に、横浜版グリーンブックの策定について伺います。

本市では2050年のカーボンニュートラルに向けて様々な分野で取組を行っています。一方、文化芸術の分野は地球温暖化との関連性が薄く、これまでほとんど取り組んでこなかったのが実情です。しかし今後はあらゆる分野で知恵を絞らなければならず、文化芸術も例外ではありません。こうした中、令和8年度予算では局の新規事業として横浜版グリーンブックの策定が示されており、文化事業や文化施設運営における二酸化炭素排出量削減のためのガイドラインを策定することです。

そこで、新たにグリーンブックを策定する狙いについて伺います。

○足立にぎわいスポーツ文化局長 市内の文化施設や文化活動に期待する地球温暖化対策に資する具体的な取組や目標をガイドラインに示すことで、将来目指すべき姿を関

係者の皆様と共有することを目的としております。策定に当たりましては専門家の助言や関係者へのヒアリングを丁寧に行うとともに、策定後は広く広報を行い、施設管理者や事業主催者の行動変容につなげていきたいと考えております。

○こがゆ康弘委員 一方で音楽や演劇の公演、あるいは美術の展示など日常的に行われている文化活動でどのような対策が可能なか具体的なイメージがつきにくいのではないのでしょうか。そこで、グリーンブックにはどのような内容を盛り込むのか伺います。

○岡文化芸術創造都市推進部長 取組の意義や基本的な方針をはじめ、例えば舞台公演では舞台装置などのリサイクルの推進、あるいは作品展示ではごみの量の削減や資材の再利用方法など、それぞれに求める取組の考え方を盛り込んでまいります。取り組むべき内容を具体的に示すことで実際の行動に移しやすくなるよう工夫してまいります。

○こがゆ康弘委員 なるほど。これまで関係性が薄かった分野でも気候変動対策に取り組むマインドを育て、意識や行動を変えていくという点で意義があるものと感じています。今回は文化分野での取組ですが、スポーツ分野やあるいはほかの様々な行政領域の分野でも策定を促すということが必要ではないのでしょうか。

そこで、温暖化対策につながる意識変容を促す取組を他の分野にも広げていくべきと思いますが、こちらは副市長に見解を伺います。

○佐藤副市長 現在にぎわいスポーツ文化局で行っている事業で、例えば大規模スポーツイベントでの不要衣類やペットボトル、また紙コップの回収、リサイクル、さらにヨルノヨでCO₂実質排出量ゼロを実現するための再生可能エネルギーの使用など、イベントの参加者や関係者と協働する脱炭素化の取組を通じまして市民の皆様にもそういった行動についての働きかけを行っているところでございます。こうした取組は他区局で行う事業においても活用できるものでありまして、取組事例は全市的にも共有して、さらにより最適な手法も検討いたしまして行動変容につながるような取組を進めていきたいと考えております。

○こがゆ康弘委員 地球温暖化というのはもう待ったなしです。ですから、この対策を前に進めるということはオール横浜で行う必要があります。これまでと同じ行動では改善は見込めません。文化分野での取組が他の分野にも広がって、全市的に共有されるということを期待いたしまして、次の質問に移ります。

次に、横浜能楽堂のリニューアルについて伺います。

横浜能楽堂は創建から150年の歴史を持つ能舞台を有し、平成8年の開館以来、我が国の伝統芸能である能、狂言の継承と市民に伝統芸能へ触れる機会を幅広く提供してまいりました。現在、同館は今年6月頃まで休館をして大規模な改修工事が進められているとのことです。ここでスライドを御覧ください。（資料を表示）こちらは改修工事前後の能舞台の様子です。大変きれいに変わっていった、そんな様子が見えます。

そこで、今回の横浜能楽堂の改修内容について伺います。

○岡文化芸術創造都市推進部長 施設を長く安心して御利用いただけるよう、今回の大規模改修ではホール内の天井脱落対策工事、老朽化した音響や照明、空調などの設備機器の更新工事を行いました。併せて客席の交換や施設内のカーペットなどの内装の更新などにより快適性の向上を図るとともに、多目的トイレの増設、オストメイト設備の設置を通じてバリアフリー化も進めました。

○こがゆ康弘委員 ぜひ再開館後にはより多くの皆さんに足を運んでいただきたいと思います。しかし、私を含めてこれまで能楽というものに興味を持っていなかった方や若い世代の中には横浜で能や狂言を鑑賞できる場所があるということ自体を御存じないという方も多いと伺います。

そこで、幅広い世代に能楽の魅力を伝えるための取組を進めるべきと考えますが、見解を伺います。

○足立にぎわいスポーツ文化局長 日常的にはなじみが薄いかもかもしれませんが、とても豊かな表現にあふれる能、狂言に触れることは感受性や想像力などを養う上で大きな意味があると考えております。そのため子供や初心者向けの狂言教室やワークショップの開催、若者を中心に幅広い世代が日常的に利用するSNSなどを通じた情報発信の強化など気軽に能、狂言に触れる機会の充実に取り組んでまいります。

○こがゆ康弘委員 ぜひ私も行ってみたいなどと思いますし、そのためのPRもいろいろとやっていただければと思います。改修を終えた横浜能楽堂が古典芸能の伝統を守りつつ、初めて能楽に触れる方々を含め多くの市民を温かく迎え入れる文化芸術の拠点となることを期待して質問を終わります。

ありがとうございました。(拍手)

○小松範昭副委員長 次に、白井正子委員の質問を許します。

○白井正子委員 日本共産党を代表して質問します。よろしく申し上げます。

まず、策定中の横浜未来の文化ビジョンについてです。

基本的な考え方ですけれども、文化芸術は人々に生きる力を与えて心豊かな暮らしに欠かすことができないもので、この文化芸術を創造し享受することは憲法や文化芸術基本法で保障された国民の権利です。今回の横浜未来の文化ビジョンには横浜文化の創造という基本的な方向に関して、市民の皆さんが文化権に基づき文化的な活動を行う環境を整えるという記述がありまして、市民の権利がうたわれていることに本当に感動しております。素案の策定に当たっては横浜文化についてさらに充実すべき項目を市民モニターに聞いたということで文化活動の場が充実していることがあって、文化活動の場の確保が課題ということがこれまでの主な御意見にもあって、この素案に向けた検討要素には文化活動の基盤となる活動場所の確保とされておりました。素案では、身近な場所で文化芸術活動に参加する市民を増やすとしています。この大切な方向が出されたと評価をしております。身近な場所で文化芸術体験ができる場を充実すべきと考えますが、見解を伺います。

○足立にぎわいスポーツ文化局長 横浜未来の文化ビジョン素案におきましては、身近

な場所で文化芸術活動に接する機会を増やすことを目指すべきことの一つとして掲げております。新たに施設を整備するだけでなくヨコハマアートサイトや子どもアートセンターなど民間団体が行う文化活動を支援し、場や機会の充実に努めてまいります。さらに文化施設における体験機会の充実も図りながら、市民の皆様が文化活動を身近に感じられる環境づくりを進めてまいります。

○白井正子委員 場の整備のことですけれども、次の区民文化センターについてです。

住民が文化芸術を鑑賞したり、発表する大切な場としての文化ホールである区民文化センターの整備は重要です。横浜未来の文化ビジョンでは区民文化センターなどの文化施設を地域コミュニティの拠点と位置づけて、地域における文化的、創造的な活動を支援することで地域住民の表現の場を広げ、新たなコミュニティ形成などに貢献する、そして地域コミュニティの活性化を図るとしています。高齢者の孤立や子育て支援など、地域課題に対して文化や創造性を生かしたアプローチで貢献するとしています。新たな役割や機能が示されたと思います。金沢区では今市内で14館目となる金沢八景駅での新たな区民文化センターの整備が進んでいますが、ホールがない形で整備がされていると聞いています。

そこで、区民文化センター未整備区における整備の考え方を伺います。

○足立にぎわいスポーツ文化局長 区民文化センター未整備区におきましては、再開発などまちづくりの機会に合わせて区内の文化施設や公会堂などの公共施設の機能の状況を踏まえまして、それぞれの区の特성에応じた必要な機能を検討し整備してまいります。

○白井正子委員 大切にしていきたい市民ニーズに応えた整備ということをお願いしたいと思います。

一方で既存の文化センターは老朽化しているところも多く、35年前に市内第1号として整備されたサンハートのある旭区から毎年のように5年継続で局へ要望が出されています。区民文化センター改修についての旭区からの要望の内容を伺います。

○岡文化芸術創造都市推進部長 旭区からは令和8年度予算編成に向けた区提案反映制度において、本市区民文化センター第1号であるサンハートをモデルケースとして築年数が大幅に経過している施設から優先的に修繕できるような全市的な整備計画の策定という要望を受けております。

○白井正子委員 舞台装置とか照明装置の劣化は安全性のリスクを伴うために市民感覚からしても早急な修繕、更新が必要と感ずますが、新年度はその要望にどう対応していくのかを伺います。

○足立にぎわいスポーツ文化局長 区民文化センターを含む文化施設の多くが竣工から30年以上経過し、設備機器などの修繕や改修が必要な時期を迎えております。旭区の要望である竣工からの経過年数だけでなく施設の不具合等の状況を鑑みながら計画的な修繕、改修が進められるよう建築局、旭区と連携して取り組んでまいります。

○白井正子委員 舞台装置というのは大変危険も伴うということですので、十分に配慮されていないと思います。何としても修繕に必要な予算を確保すべきと思いますが、

見解を伺います。

○足立にぎわいスポーツ文化局長 文化施設の修繕につきましては、建築局の長寿命化対策事業による修繕に加えまして局においても予算を計上し、安全性への配慮や緊急性の高いものから計画的に修繕を進めております。区民文化センターが地域の文化活動拠点として市民の皆様にも末永く御利用いただけるよう今後も必要な予算の確保に取り組む、施設の維持管理を図ってまいります。

○白井正子委員 次に、若者の文化体験の拡大についてです。

若者の文化体験を拡大していくことは重要な政策です。昨年の第3回定例会常任委員会資料では、高校生の意見として体験格差を減らす一つの目的としても無料や割引などで体験ができる機会が増えればいいと思うという声が上がっています。横浜未来の文化ビジョンにも誰もが自分の夢に向かって進めるまち、子どもたちの文化体験機会の提供とされておりまして、若者への体験機会の提供は本当に重要と考えますが、若者に対する具体的な取組はどうなっているのか伺います。

○岡文化芸術創造都市推進部長 音楽、演劇、ダンス、美術、伝統芸能などの分野のアーティストが小中特別支援学校の授業の中で行う学校プログラムのほか、放課後キッズクラブや放課後児童クラブなどで夏休み期間中に気軽に参加できる文化体験プログラムを提供してございます。また劇団四季のミュージカル公演に市内在住在学の高校生を招待し、国内トップレベルの舞台の鑑賞機会を提供しております。

○白井正子委員 今お伺いした劇団四季のミュージカルの高校生招待について、市が席を確保して市内の高校生を招待しているということですが、この応募の状況はどうかを伺います。

○岡文化芸術創造都市推進部長 令和7年度は189人募集のところ1494人の応募があり、抽せん倍率は7.9倍となりました。例年多くの御応募をいただいております、大変人気があると認識してございます。

○白井正子委員 この高倍率に期待が表れていると思います。体験格差を減らすとしているのですから、無料招待は希望に応えられる規模に拡大を求めたいと思います。高校生や大学生が文化体験できる機会をもっと拡充すべきと思います。見解を伺います。

○足立にぎわいスポーツ文化局長 文化体験の機会を高校生や大学生に提供することは感じる力や表現する力を育むだけでなく、異なる価値観に触れることで他者への想像力が育ち、自分自身の世界を広げる上でも重要であると考えております。劇団四季の高校生招待を継続するほか、横浜美術館観覧料における高校生、大学生の割引料金設定を継続するなど引き続き様々な形で高校生、大学生の参加の機会を創出してまいります。

○白井正子委員 ぜひ国に対しても若者の文化予算の拡充を求めていただきたいということを要望しておきます。併せて要望ですけれども、国の文化財政策で今批判が上がっている点があります。文化庁が国立の博物館や美術館の運営について国費に頼らない構造に転換をするということで、入館料の引上げや訪日外国人観光客が割高にな

るという入館料の二重価格を打ち出したことから、稼ぐ文化施設とすることへの批判です。こういった政策が本市に持ち込まれないよう、併せて要望をして終わります。

○小松範昭副委員長 次に、おさかべさやか委員の質問を許します。（「頑張れ」と呼ぶ者あり、拍手）

○おさかべさやか委員 自由民主党のおさかべさやかです。どうぞよろしく願いいたします。

まず初めに、令和8年度の予算案についてお伺いします。

にぎわいスポーツ文化局は観光MICE、スポーツ、文化を一体的に推進するために設立され、間もなく3年です。大規模イベント支援やIP連携でまちなにぎわいと経済活性化に貢献してきました。今期もザよこはまパレード、横浜国際映画祭、横浜マラソン、ヨルノヨなどで多くの来訪者を迎え、年間を通じてにぎわいが生まれました。来年度はGREEN×EXPO 2027を1年後に控え、誘客を本格化させる重要な年であり、中期計画2026～2029の初年度としてより一層踏み込んだ施策で魅力を高める必要があります。令和8年度予算案に込めた思いについて局長にお伺いいたします。

○足立にぎわいスポーツ文化局長 令和8年度も民間事業者の皆様とのネットワークを最大限に生かし、まちを楽しむ仕掛けを戦略的に展開していきます。特にGREEN×EXPO 2027と連動し都心臨海部との相互送客の促進を図るため、ヨルノヨの開催期間の拡大、花火や早朝クルーズなどのコンテンツの充実、国際会議からの送客、さらに観光都市横浜を代表する観光資源である三溪園のさらなる磨き上げなどに取り組みます。これらの取組を旅行予約サイトでの宿泊と組み合わせたプロモーションの強化、JRデスティネーションキャンペーンのプレキャンペーンの展開、市内回遊促進プラットフォームの構築などを通じて戦略的に発信することで市内全域の回遊性向上につなげ、滞在時間の延長と宿泊を促進いたします。また子供たちをはじめとした誰もがスポーツや文化活動に参加できる機会や環境の充実に向けまして、スポーツを通じた地域課題解決や子どもアートセンターの認定などにもしっかりと取り組み、観光やスポーツ・文化により、にぎわい・活力のあるまちの実現につなげてまいります。

○おさかべさやか委員 GREEN×EXPO 2027で多くの来訪者が見込まれるため、横浜のPRと経済活性化に注力するとともに、市民、特に子供たちが体を動かし楽しめる機会を増やしてもらいたいと思います。

次に、市内宿泊促進についてお伺いします。

コロナ禍以降、日本全体でインバウンド需要が大きく回復しており、都市部では宿泊需要が高まっています。こちらを御覧ください。（資料を表示）これは東京都の宿泊施設の状況になります。国の発表によると2024年度の宿泊施設数が5858施設、客室数は21万2888室に達し、ホテル稼働率も76.3%という高い水準になっています。こちらを御覧ください。こちらは横浜市の宿泊施設の状況です。調査方法などが異なるため単純比較はできませんが、客室数などには圧倒的な差があり、規模が小さいことは否めません。しかしながら・カハラ・ホテル&リゾート横浜やヒルトン横浜など、

みなとみらい地区を中心にラグジュアリーホテルの開業やインバウンド需要の増加に合わせた外資系ホテルの進出など横浜におけるホテル立地は前進していると感じます。横浜の宿泊環境がどれほど整ってきたのか、そして実際に横浜に観光やビジネスで訪れ、宿泊している方はどれだけいるのか。これは観光MICE都市として競争力の強化を検討する上でも重要な視点だと思えます。横浜市の宿泊環境と宿泊客の状況に関する認識について教えてください。

○市川担当理事 本市の調べによりますが、ホテル客室数は2020年の約1万8607室から2025年には約2万3200室と5000室近く増加しております。宿泊客の受入れ環境が充実しているとともに、稼働率も上昇傾向となっております。また2024年の宿泊客数は前年から130万人増加いたしまして約511万人となっておりますが、コロナ禍前の宿泊客数が約567万人となっておりますので、まだ届いておらず、日帰り客に比べ宿泊客が少ない点が課題だと認識しております。

○おさかべさやか委員 市内外国人の延べ宿泊者数はここ数年右肩上がり伸びていて、コロナ禍前の2019年の約78万人泊から2024年は94万人泊と大きく上昇し過去最高になっています。こちらを御覧ください。一方で、こちらは横浜市観光動態消費動向調査における宿泊数のグラフです。赤い四角で囲んだ箇所が外国人の宿泊数になるのですけれども、ゼロ泊から1泊が47.8%と約半数を占めています。このデータから外国人観光客が長期に東京に滞在し、その間に横浜を訪れたということが推測されます。せっかく多くのインバウンド客が横浜を訪れている一方で、市内の宿泊につなげられていないことは大変もったいないと思います。インバウンドを対象とした宿泊促進施策としての取組について教えてください。

○足立にぎわいスポーツ文化局長 近年は個人旅行が中心となっております。旅行の手配ではじゃらんやエクスぺディアといった宿泊旅行サイトが主流となっております。このサイト内で横浜の立地利便性などを伝えることで、目的地として東京など首都圏を想定している旅行者に対してアプローチしていくことが効果的だと考えています。さらに旅先の情報はSNSや動画などから収集されますので、宿泊予約サイトの取組と併せましてインフルエンサーを活用したプロモーションなどにも取り組んでまいります。

○おさかべさやか委員 インバウンドと一言で言っても横浜に来る外国人の国籍や年代、来日の目的など様々だと思います。GREEN×EXPO 2027を見据えた場合にどのような人をターゲットとして選定し、どうやって宿泊を促していくのが効果的なのか、しっかりと戦略を練った上でのプロモーションが重要だと思います。インバウンド誘客に向けたプロモーション戦略の考え方について教えてください。

○足立にぎわいスポーツ文化局長 メインターゲットは横浜での宿泊者数が多い上位国から選定しております。GREEN×EXPO 2027を見据えた場合、多くの来訪が予想されるのは花や緑に関心の高い東南アジアや東アジア諸国からの訪日リピーター層と考えております。これらの層を対象とした宿泊予約サイトでのアプローチに加えまして、MICEで訪れるビジネス層に対してもアフターコンベンションとしてGREEN×EXPO 2027を

提案するなど、様々な機会を捉え、効果的なプロモーションに取り組んでまいります。

○おさかべさやか委員 こちらを御覧ください。来年に迫ったGREEN×EXPO 2027では、和の雰囲気を楽しんでもらえるような日本らしいコンテンツが盛り込まれると外国の方々に喜んでいただけるのではないかと思います。日本庭園や桜に加え、生け花や盆栽などもあるようですが、広い会場内に人力車を走らせるのもインバウンドには喜ばれる日本らしさとなるのではないのでしょうか。ほかにも茶屋があるとか着物での配膳があるとかお抹茶や和菓子などの日本の食文化が楽しめたり、花札や百人一首などの日本の伝統文化が楽しめたり、外国人の方が心ときめくような日本らしいコンテンツを考えていってください。こうした工夫で滞在時間を延ばし、インバウンドを含む多くの人に横浜に宿泊してもらえるようターゲットごとに適切な施策を着実に実行していってください。

次に、IPコンテンツを活用した宿泊促進について伺います。

こちらを御覧ください。（資料を表示）うちの息子は一番好きなのがスピノサウルスなのですけれども、そのスピノサウルスのホテルルームになります。小学校一年生のうちの息子は小さい頃から恐竜が大好きで、洋服も恐竜デザインのものですし、部屋の壁も恐竜という徹底ぶりです。そんな息子のために昨年のゴールデンウィークに福井県に行ってきました。目的は恐竜博物館だったのですが、息子が喜ぶと思ってホテルは恐竜ルームに宿泊しました。こちらを御覧ください。翌日泊まった別のホテルの恐竜ルームです。スピノサウルスルームほど派手ではなく、壁に恐竜の模型がかけられてあって、部屋に恐竜のフィギュアが並べられているというものでした。それでもうちの子たちは大喜びで夕飯も部屋で食べたい、出たくないと言うくらいでした。こういった恐竜のコンセプトルームのあるホテルが福井県には多数あり、恐竜をキラーコンテンツにしてまち全体のにぎわいにつなげています。

横浜市はこれまで子供に人気のアニメやキャラクターなどのIPコンテンツと連携して回遊施策を進めてきました。さらに宿泊施設と連携すれば、横浜で泊まって楽しむ人が増えると思います。IPコンテンツと連携した宿泊プランの実績について教えてください。

○守屋にぎわい創出戦略部長 これまでの宿泊施設の連携の実績といたしましてはガンダムですとかかえるのピクルス、エヴァンゲリオンなどの連携施策において、室内をその作品の世界観ですとかキャラクターで装飾するコラボルームといったものですとか限定のオリジナルグッズなどが手に入る特典つき宿泊プランなどを実施しております。

○おさかべさやか委員 横浜もやっていってくれるということでちょっと安心しました。横浜に長く滞在して宿泊してもらうことは観光消費を増やし、市内経済を活性化する上で非常に重要です。これまでのコラボルームの事例を踏まえ、IPコンテンツとの連携をさらに進め、宿泊促進につながる具体的な取組を増やしていく必要があると思います。宿泊施設の連携施策の今後の方向性について教えてください。

○足立にぎわいスポーツ文化局長 これまで様々なIPコンテンツとの連携事例を積み重ねてきたことで、現在も多くの連携の御相談をいただいております。今後もこれまで取り組んできました事例などを踏まえ、宿泊施設との連携をはじめ商業施設、観光施設など多岐にわたった回遊滞在延長に資する施策を展開してまいります。あわせてその取組を宿泊予約サイトなどとも連動してプロモーションを展開することで、積極的に宿泊促進につなげてまいります。

○おさかべさやか委員 横浜には温泉もなければ富士山もない、トロピカルな白砂のビーチもなければ世界遺産もない。けれども、横浜には知恵があるとなってもらいたいと思います。その一つにこのコンセプトルームがあるのではないかなど、こういう考え方をぜひ強く進めていってください。福井県に恐竜をテーマにしたコンセプトルームがたくさんあるように、子供が喜ぶキャラクターやテーマのコラボルームが横浜に増えれば家族旅行の候補に挙がり、横浜で宿泊する動機になります。パシフィコ横浜で恐竜展が開催されたときは横浜で恐竜ルームをやってもいいように思います。横浜市内に住んでいたとしても子供を喜ばせたいと誕生日や記念日に宿泊する家族もいると思います。横浜市は子育てしやすいまちを目指しているのですから、子供が楽しめる施設や体験を増やすことは重要です。そのために宿泊事業者に積極的に働きかけて子供が喜ぶホテル、部屋と検索すると横浜が検索の上位に上がってくるように、そしてコンセプトルームといえば横浜と全国に知れ渡るように強く押し進めていってください。

もう一つ、皆さん、オールインクルーシブという考えを御存じでしょうか。宿泊料金に夕飯、朝食、ラウンジでのドリンク、おつまみ、温泉、アクティビティーなど全てのサービスが含まれる宿泊スタイルのことを言います。つまり、その施設に行ったらその施設から出ずに1日過ごせる、その施設自体が旅行の目的になるというものです。うちの子供たちは今バブリゾートという宿泊施設にはまっています。バブ、BUBと書くこの施設は家族で大自然を全力で楽しめる新感覚の体験型テーマパークです。子供を楽ませる遊びのプロのクルーが季節ごとに変わる毎日20種類以上のアクティビティーを提供してくれます。アクティビティー、食事、宿泊全て追加料金なしのオールインクルーシブになっています。

こちらを御覧ください。チェックインと同時に子供はクルーとこれだけたくさんアクティビティーで遊びます。なので、大人は子供の面倒を見なくてもよくて、夕飯も子供は別室でクルーが食べさせてくれるので、大人は大人の時間を楽しむことができます。朝も7時から音楽が鳴り出して、いつもならなかなか起きてくれず、私が着替えさせないとならない下の息子も目覚ましをかけなくてもぴくっと起き出し、自分で着替えて、私のことなどそっちのけで音楽に誘われて部屋を飛び出していきます。

こちらを御覧ください。このバブリゾートは千葉と八ヶ岳とつくばの3拠点あるのですが、こちらは千葉の長生郡の様子です。後ろにドームテントがあるのですけれども、ここはグランピング施設になります。うちの子たちははだしでクルーと遊んでいます。こちらを御覧ください。右側の若い男の人がクルーで、国籍も様々な体力のあ

る若い男女がクルーをやってくれています。絵の具でぐちゃぐちゃになって、子供たちは本当に心の底から笑い転げて思いっきり遊んでいました。こちらを御覧ください。この千葉の長生郡のバブは廃校を利用して校庭や校舎を遊び場、宿泊施設にしています。校舎の壁がボルダリングになっていますし、校舎の中の教室では工作のアクティビティーをやったりしています。

こちらを御覧ください。こちらが八ヶ岳のバブリゾートで、こちらはホテル形式になります。左側の写真は逃走中という番組でおなじみのハンターの写真です。娘はこの逃走中という鬼ごっこが大好きで食い入るようにハンターを見ています。この後、ハンターに全力で追いかけるのですが、本当に逃走中をやりたい、やりたいと何回もクルーにせがんでいました。またクッキングのアクティビティーもありますし、右下はサバイバルゲームで親も参加し、当日出会ったほかの家族と一緒に青チームとオレンジチームに分かれて打ち合いました。こんな盛りだくさんのバブリゾートかうちの子たちはお気に入り、また行きたい、また行きたいと何度もせがみます。千葉、八ヶ岳は行ったので、次はつくばに子供たちを連れて行ってあげたいと親としては思ってしまう、まんまとこのバブリゾートの商法に載せられている私です。このオールインクルーシブという考え方は宿泊施設そのものが旅行の目的地になっているという考え方で、これも横浜に必要な一つのアイデアになるのではないかと思います。横浜は知恵とアイデアで今後も宿泊促進していってもらえるようお願いいたします。

次に、GREEN×EXPO 2027と連動した都心臨海部のにぎわい創出についてお伺いします。

昨年のお阪・関西万博は184日間で来場者数約2500万人を超え、特に後半に盛り上がりました。上瀬谷でのGREEN×EXPO 2027開催まで残り1年と10日です。GREEN×EXPO 2027は経済効果だけではなく横浜の魅力を伝える絶好の機会です。会場の成功に加え、来場者や臨海部や郊外まで回遊して横浜に来てよかったと感じてもらえるように取り組むべきです。昨年のお阪・関西万博の取組を参考にして観光施策を進めるべきですが、GREEN×EXPO 2027開催時における観光面での課題について教えてください。

- 市川担当理事 大阪・関西万博の会場は繁華街や宿泊施設の多い大阪の中心部を經由する立地となっております。一方、GREEN×EXPO 2027の会場は全ての新幹線が停車する新横浜駅から近く、また会場と結ぶシャトルバスの発着駅は都内への直通線も通っております。さらに高速道路のジャンクションが最寄りにあるなど多くの人口を抱える首都圏からのアクセスに優れており、このためGREEN×EXPO 2027への集客が期待できる反面、横浜観光の中心となっております都心臨海部への回遊、宿泊促進が課題であると考えております。
- おさかべさやか委員 GREEN×EXPO 2027会場から都心臨海部まで宿泊に来てもらうことが課題ということですが、GREEN×EXPO 2027の会場から都心臨海区まで来て泊まってもらうためには都心臨海部まで来る間も楽しんでもらえるような輸送手段の仕掛け

が必要だと思えます。

こちらを御覧ください。（資料を表示）福井県のえちぜん鉄道の恐竜列車です。行きは福井駅から勝山駅を経由して恐竜博物館まで行きます。こちらを御覧ください。車内では恐竜時代と化石発掘の雰囲気を感じられるようになっていて、列車自体がテーマパークのようになっています。こちらを御覧ください。福井県から恐竜博物館へと直通となる恐竜バスです。こちらのバスの車内では専用タブレットを使用して恐竜AR、つまりは拡張現実で、まるでバスの車内に恐竜がいるかのような体験を楽しむことができます。こちらを御覧ください。こちらは新感覚XRバス WOW RIDE いこっさ！福井号です。こちらは窓や天井のディスプレイに太古の時代の恐竜が映し出されます。走行する実際の風景とバーチャル映像が融合し、座っているだけで物語に没入する移動体験ができるということです。

すいません、局長、通告外なのですけれども、こういった輸送手段を楽しめるような仕掛けを何かお考えでしょうか、教えてください。

○足立にぎわいスポーツ文化局長 にぎわいスポーツ文化局はイベントの磨き上げや民間事業者さんとの連携を通じて滞在やどう楽しんでいただくかということに取り組んでおりますが、委員おっしゃるとおり、そこに来るまでのワクワクはより目的地での体験をすごく楽しいもの、豊かなものにしてほしいと思っております。まずはイメージをしていかなければいけません、今日いただきました事例も参考にしながら、どんなことができるかというのは常に意識していきたいと考えております。

○おさかべさやか委員 ぜひお願いします。福井県に負けないように、他局と連携して都心臨海部のホテルまで来てもらう間も楽しめる仕掛けをぜひ検討していただきたいと思います。そうでないと南町田の駅から田園都市線で東京に行ってしまうと思いますので、要望させていただきます。

さて令和8年度の予算案では、GREEN×EXPO 2027期間中に来場者を都心臨海部等へ誘導するため、各種コンテンツを充実させてにぎわいを創出する計画です。そこで、幾つか具体的に質問します。

まずは、創造的イルミネーション事業ヨルノヨについてお伺いします。回を重ねるごとにコンテンツの規模が着実に大きくなって、これまで6回の開催で、メディアやSNSでの反響もありイベントの認知度は確実に高まっていると思います。令和7年度のヨルノヨの開催実績について教えてください。

○足立にぎわいスポーツ文化局長 まち全体が光と音楽で連動するハイライト・オブ・ヨコハマには過去最大の46の施設に御協力をいただきました。大さん橋や山下公園では国内最大級のプロジェクションマッピング等を実施し、そうしたコアエリアへの来場者は約100万人、観光消費額は約66億円と大きなにぎわい創出につながりました。

○おさかべさやか委員 このヨルノヨがGREEN×EXPO 2027と連動して開催期間を大幅に拡大すると伺っています。GREEN×EXPO 2027会場から都心臨海部への送客や横浜への来街促進においてヨルノヨは大きな役割を果たすように思います。GREEN×EXPO 2027開催期間中にヨルノヨを実施する狙いについて教えてください。

○足立にぎわいスポーツ文化局長 ヨルノヨや花火の取組などが評価され、令和6年12月に日本新三大夜景都市に選定されました。GREEN×EXPO 2027開催期間中にこの取組を実施することで、GREEN×EXPO 2027会場から都心臨海部への送客を強化いたします。横浜の夜景を多くの方々にお楽しみいただくとともに、国内外メディアでの露出を高め、夜景の美しい都市としてブランド価値向上を図ります。GREEN×EXPO 2027を契機に初めて横浜を来訪される方々に美しい町並みを生かした夜景を印象づけ、再来訪につなげたいと考えています。

○おさかべさやか委員 ぜひGREEN×EXPO 2027開催期間中に実施するヨルノヨでも、これまで以上にワクワクする体験ができるようにお願いします。

次に、体験型モーニングコンテンツの造成について伺います。こちらを御覧ください。（資料を表示）今年度、試行的に朝から横浜を楽しめるためのコンテンツとして朝の横浜を気球に乗って楽しむみなとみらい熱気球係留搭乗体験会を行いました。こちらを御覧ください。さらに日の出を横浜港の海の上から眺めるモーニングクルーズに取り組んだと伺っています。熱気球、モーニングクルーズの開催実績について教えてください。

○守屋にぎわい創出戦略部長 熱気球搭乗体験につきましては、天候の影響によりまして2回中止となったため計3回実施をしております。またモーニングクルーズにつきましては、予定どおり計4回実施をしております。いずれも満席となっております。合計で約700名の方に楽しんでいただいております。参加者アンケートにおきましてもほぼ全員が満足というように回答されておまして、非日常の体験ができてとても楽しかったですとか横浜のすばらしい景色を背景に最高の日の出が見られて最高の時間を過ごせたといった声も頂戴しております。

○おさかべさやか委員 すごくいい取組だと思います。今年度は試行実施とのことですが、GREEN×EXPO 2027期間中に大規模展開していくことを想定すると、今年の試行を踏まえて来年度どのように発展させるのか知りたいです。GREEN×EXPO 2027開催期間中を含めたモーニングコンテンツの今後の展開について教えてください。

○足立にぎわいスポーツ文化局長 今年度は試行的な取組でしたが、熱気球搭乗体験は予約開始後各回30分以内で完売するなど、熱気球、モーニングクルーズいずれも大変好評をいただいております。こうした状況を踏まえまして来年度は本格実施に移行し、実施回数を増やすとともに、GREEN×EXPO 2027開催期間中の実施に向けてホテルなどの観光事業者とも連携し、朝も楽しめるまち横浜として宿泊需要の一層の喚起に取り組んでまいります。

○おさかべさやか委員 ヨルノヨと朝の取組で夜も朝も楽しい横浜という印象がGREEN×EXPO 2027来場者に伝わり、多くの方が都心臨海部に宿泊してくれたらと思います。

次に、郊外も含めた取組についてお伺いします。GREEN×EXPO 2027成功のためには郊外を含む市内全体で盛り上げ、機運を高めることが大切です。例えば郊外の商店街を巡るなど市域全体を視野に入れた回遊施策が重要です。来年度は市域全体の取組を

新たなプラットフォームで発信する予定と聞いています。市内回遊性促進のプラットフォームを構築する狙いについて教えてください。

○足立にぎわいスポーツ文化局長 GREEN×EXPO 2027開催期間中、市内の各地域や商店街などではGREEN×EXPO 2027に関連する様々なイベントや取組が実施されることと思っております。それらを共有のプラットフォームで情報を取りまとめ、一体的に発信することでGREEN×EXPO 2027市全体で盛り上げ、機運情勢につなげてまいります。またこの発信によりGREEN×EXPO 2027来場者に会場外の市域全体にも足を運んでいただきまして、市内の回遊促進を図るとともに、観光消費額の拡大を目指してまいります。

○おさかべさやか委員 これまで横浜ではGREEN×EXPO 2027に関連する会場外の情報の一元的な発信がありませんでした。新しいプラットフォームを展開すればGREEN×EXPO 2027を応援したい事業者や団体が増えると考えられます。どのような情報発信や連携施策を具体的に展開する予定なのか、プラットフォームの概要について教えてください。

○足立にぎわいスポーツ文化局長 DMOであります横浜市観光協会とともに、GREEN×EXPO 2027開催期間中に展開されます市内事業者、地域、団体等による環境を意識した取組やGREEN×EXPO 2027に関連した取組などをウェブサイトにもとめ、一体的に発信するプラットフォームを令和8年の秋頃に構築いたします。また、その中で情報の拡散力を発揮できるSNSや回遊性を高めるオンラインマップの活用なども検討してまいります。

○おさかべさやか委員 GREEN×EXPO 2027開催に合わせてJRグループ6社と共同でデスティネーションキャンペーンを実施することですが、こうした全国規模の観光プロモーションを活用していくことはGREEN×EXPO 2027会場への集客だけではなく都心臨海部のにぎわい創出に大きな効果があると思います。本日確認した都心臨海部のコンテンツや地域と連携した新しいプラットフォームを有力な観光資源として誘客につなげるには、次の点が重要だと思います。まず、全国のより多くの人に認知してもらうために効果的なプロモーションを行うこと、次に、GREEN×EXPO 2027に合わせて実施する全国規模の観光プロモーションであるデスティネーションキャンペーンを積極的に活用すること、そして、こうした全国的なプロモーションはGREEN×EXPO 2027会場への集客にとどまらず、都心臨海部のにぎわい創出にも大きな効果を発揮すること、こういった点が重要だと思いますが、デスティネーションキャンペーンの具体的な取組について教えてください。

○市川担当理事 来年度は全国JR駅約700か所で三溪園やみなとみらいを背景としたキャンペーンポスターの掲出、駅のサインージュなどを活用したプロモーションを展開してまいります。さらにGREEN×EXPO 2027開催期間中に多くの旅行商品が造成されるように、旅行代理店向けに全国宣伝販売促進会議や視察ツアーなどを実施いたしまして、2027年春の本番キャンペーンにおきまして様々なこういう取組によって造成されたツアーの販売促進につなげてGREEN×EXPO 2027来場者の都心臨海部への回遊を促し

まして、にぎわいを創出してまいります。

○おさかべさやか委員　こちらを御覧ください。先日協議会がリリースしたデスティネーションキャンペーンのキャッチコピーとロゴマークになります。「旅のぜんぶがここにある。カナウネハマルネ 神奈川・横浜デスティネーションキャンペーン」となっています。少々読みづらいのではと思いますが、それが狙いなのかなとも感じましたので、このコピーとビジュアルが広まることを祈っています。GREEN×EXPO 2027と連動して横浜ならではの体験を提供することは横浜の魅力を伝え、再訪につながる絶好の機会です。にぎわいスポーツ文化局には観光消費の拡大に全力で取り組んでいただき、市全体でこの機会を逃さず、GREEN×EXPO 2027を契機とした市内経済の活性化を総合的に進める必要があります。開幕を控えたGREEN×EXPO 2027と連動したにぎわい創出と市内経済活性化への決意について副市長にお伺いします。

○佐藤副市長　GREEN×EXPO 2027会場に来られます皆様をしっかりと商店街をはじめとした市内の地域、また都心臨海部に誘客していくことがにぎわいの創出、あるいは経済活性化につながっていくものとも考えております。GREEN×EXPO 2027開催に向けては、やはり横浜が持つ魅力をまず一層磨き上げていくこと、さらにデスティネーションキャンペーンを通して、それをPR、発信していくことの大切さということ自体で、今現在一生懸命やっているところではございますけれども、先ほども委員から御紹介いただきました福井県の恐竜バス、恐竜電車、やはり乗ってみたいくなるバス、電車があること、乗ってみて目的地に行けるといえることは、それはもう最高の楽しみだなというふうにも感じました。これから、そういった点も踏まえまして、さらに地域あるいは企業の皆様、そして地元の団体であるとか、そういう方たちと情報交換をしっかりとやりながら、これはGREEN×EXPO 2027会場だけで終わらせるわけにはいかないの、横浜全域全体が大いににぎわっていく、経済が活性化していく、それが何よりも大切だと思っておりますので、引き続き一生懸命やっていきたいと考えております。

○おさかべさやか委員　佐藤副市長、ありがとうございます。にぎわい創出の取組をしっかりと進めてもらいつつ、市内経済活性化につなげてください。そのためにも、先ほど御提案した恐竜列車や恐竜バスのようなGREEN×EXPO 2027会場から都心臨海部に来るまでの間の来場者を飽きさせない施策も充実させてもらいながら、引き続きわくわくするような仕掛けづくりをお願いいたします。

最後に、スポーツを通じた地域課題解決事業についてお伺いします。

ミラノ・コルティナ冬季五輪では、りくりゅうペアをはじめ多くの日本選手が活躍し、過去最多のメダルを記録しました。スポーツは心身の成長や体力向上に加え、夢や感動、勇気を与える重要な力です。我が党が中心となって提言をまとめた改正スポーツ基本法が成立し、健康長寿や共生、地域経済の活性化などスポーツの社会的役割が見直されました。この流れを受け、横浜市は令和8年度予算でスポーツを通じた地域課題解決事業を新規に計上しました。スポーツと地域課題を結びつけ、スポーツの新たな可能性を広げる事業です。スポーツを通じた地域課題解決事業の狙いについ

て教えてください。

○足立にぎわいスポーツ文化局長 成人や子供のスポーツ実施率が第3期横浜市スポーツ推進計画の目標に達していないなどの現状を踏まえまして市民の皆様がスポーツをする、見る、支える機会をさらに増やす必要がございます。そこで、競技団体などスポーツ関係団体が行う公益性、公共性の高い取組を企業版ふるさと納税を活用して支援することでスポーツ体験の機会を広げ、本市のスポーツ環境をより充実させることを狙いとしております。

○おさかべさやか委員 地域の課題解決のため、今回の公募は市民の健康増進と子供のスポーツ体験拡充の2テーマを掲げました。どちらもスポーツの重要な役割に合致しており、団体が多様なアイデアを提案しやすいテーマだったと思います。今回採択した事業の内容について教えてください。

○熊坂スポーツ振興部長 幅広い世代が参加できるサッカー教室やアイスホッケー教室などに加えまして小学生を対象としたプロスポーツの観戦機会の提供、また学校訪問によるバスケットボール教室の取組を寄附募集の対象事業として採択しました。これらの事業への支援が実現しますと、延べ1万人を超える市民の皆様がスポーツ体験機会を提供することが可能となります。

○おさかべさやか委員 新規事業の初年度に市の課題解決につながる提案があったことを評価します。この事業で市民が多様なスポーツに触れる機会が増えれば関心が高まり、身近になりますし、企業版ふるさと納税を活用して経済的負担を軽減しつつ子供の体験機会を充実させることは機会格差の是正にもつながります。家庭環境等に関わらず子供たちがスポーツに取り組める機会の充実が重要と考えますが、副市長の見解をお伺いします。

○佐藤副市長 次期中期計画素案におきましては年齢や性別、障害の有無、家庭環境等に関わらず、市内の各地域で隔たりなく誰もがスポーツに参加し楽しむことができる環境を充実させることを目指す姿として掲げております。今後も本市が主体的に取り組むだけではなくてスポーツ・レクリエーション振興基金を活用した民間企業や地域の皆様と連携する、こういった事業も充実させながら、経済的な負担にも配慮し、多くの市民、誰もがスポーツを实践できる、そういった環境を整えていきたいと考えております。

○おさかべさやか委員 今回の新規事業も実際に体験する子供たちの声を拾い、子供の立場に立って進めていただくことをお願いいたします。また今後は公募をもうちょっと幅広くやっていただくなど、地域でやっているスポーツ団体にも資金が回るよう仕組みを検討していただけるよう要望いたします。

以上で私の質問を終わります。ありがとうございました。（拍手）

○小松範昭副委員長 次に、武田勝久委員の質問を許します。（拍手）

○武田勝久委員 公明党の武田勝久です。よろしくをお願いいたします。

初めに、スポーツにおける熱中症対策について伺います。

夏の暑さが年々厳しくなる中で、スポーツにおいては何とか工夫をしながら実施されているのが現状です。しかし残念ながら熱中症により体調を崩すケースもあつたり、最悪の場合は命の危険にもさらされます。日本スポーツ協会がスポーツ活動中の熱中症予防ガイドブックを発行しており、各競技団体においてもガイドラインを作成していると聞いております。ガイドラインをしっかりと遵守していただくとともに、本市としてもさらなる取組が必要なのではないかと考えます。

そこで、夏のスポーツイベント実施に当たり本市が独自に実施している熱中症対策についてスポーツ振興部長にお伺いいたします。

○熊坂スポーツ振興部長 本市が独自に実施している取組の一例となりますが、毎年8月に本市が全日本軟式野球連盟とともに主催しております全日本少年軟式野球大会では、熱中症対策の一環として令和5年度からベンチ内にスポットクーラーを設置するほか、選手の健康状態をきめ細やかに観察いただくため、保護者2名の方にベンチ入りをお願いしているところでございます。またこれらに加え、令和7年度からになります、1チームが1日に2試合行うことがないように、大会日程を1日延ばしまして4日間から5日間にしているといった取組を行っております。

○武田勝久委員 本市が主催となる場合はこうした取組をしているということですが、それ以外の競技団体等による活動イベントが圧倒的に多い状況です。こうした団体に対してガイドラインの遵守を促していくこと、それと併せて団体が対策を進めやすくなるような環境づくりを本市として進めていくことが大切です。

そこで、競技団体等が熱中症対策に取り組みやすいような環境づくりや情報発信を進めるべきと考えますが、見解を局長にお伺いいたします。

○足立にぎわいスポーツ文化局長 委員御指摘のとおり、安全なスポーツ環境の提供は重要だと認識しております。これまでもスポーツセンターへの空調設置に取り組んでまいりました。さらに令和6年度からは、事故防止を目的に熱中症警戒アラート発令時等のキャンセル料を無料とするなど運用面での取組も開始しております。今後こうした取組を進めるとともに、横浜市スポーツ協会等とも連携しまして競技団体による熱中症対策を通じた安全なスポーツ環境づくりにしっかり取り組んでまいります。

○武田勝久委員 ぜひ積極的に進めていただきたいと思っております。

その中で活動の時間帯自体を見直すという視点を、例えば夏の間は屋外での活動は暑さが落ち着く夕方から実施をする、こんな発想の転換をしていくことが必要な状況かと思っております。そこで有効なのがこれまでも我が党が積極的に進めてまいりました学校施設への夜間照明設置です。私は以前、戸塚区の柏尾小学校を視察させていただきましたが、照明があることでグラウンドが明るくなり、夕方から夜の時間帯でもスポーツができるようになって便利でありますし、これは夏の暑さ対策としても大変有効と考えます。

そこで、夜間照明の設置は熱中症対策としても有効であり、さらに推進すべきと考えますが、見解を局長にお伺いいたします。

○足立にぎわいスポーツ文化局長 夜間照明設置校では、スポーツのほか地域の夏祭り

などのイベントを含めまして年間約10万人の市民の皆様に御利用いただいております。利用者からは暑さを避けた時間帯での開催が可能になったとの御意見も頂戴するなど、暑さ対策にも寄与しているものと考えております。令和8年度も新たに1校の設計を進めていく予定ですが、今後とも地域の皆様の御理解をいただきつつ着実に事業を進めてまいります。

- 武田勝久委員 着実な推進を期待しております。夜間照明は現在もスポーツくじのスポーツ振興くじ助成金を活用していると聞いております。厳しい財政状況の中にあっても積極的に夜間照明設置事業を進めるために、企業版ふるさと納税やスポーツ・レクリエーション振興基金を活用するなどさらなる財源確保の取組も行いながら事業推進していただくことを要望しまして、次の質問に移ります。

次に、夜も魅力的な水際線の実現について伺います。

令和8年度予算では水際線の魅力向上が掲げられておりますが、臨港パークから山下公園までの水際線エリアは市内外の来訪者が最も横浜らしさを感じられる場所であり、また横浜市民にとっても、ここが横浜だと誇りに思えるスポットであると思えます。山中市長は予算関連質疑において、水際線の磨き上げについては照明の演出をとということも言及をされておりました。現在、(仮称)水際線まちづくりコンセプトプランの策定に向けて検討が進められておりますが、まず、横浜の夜景の特徴についてにぎわい創出戦略部担当部長にお伺いいたします。

- 足立にぎわいスポーツ文化局長 横浜の夜景の魅力は都市そのものの美しさにあります。海に近い立地が生む開放感や水面に映る光のきらめきに加えて、開港以来築き上げてきました港の歴史を今に伝える赤レンガ倉庫などの歴史的建造物の町並み、ランドマークタワーをはじめとするみなとみらいの高層ビル群が描くスカイラインなど長い年月をかけて形成されてきた独自の都市景観を生かしていることが評価されております。

- 武田勝久委員 ここでスライドを御覧ください。(資料を表示)横浜の夜景は昼間とは異なる魅力を持つ都市資源であり、ヨルノヨや花火といった夜間イベントを展開し、日本新三大夜景都市に選ばれるなど高い評価を受けております。こうした魅力を計画的、戦略的に磨き上げることで夜の横浜にも行ってみたいと思う方を増やすさらなる観光都市としての競争力向上につながると考えます。

そこで、水際線における夜景の磨き上げの考え方について局長にお伺いいたします。

- 足立にぎわいスポーツ文化局長 水際線のまちづくりでは、横浜の夜景の特徴を生かして海に映る光で水際線の輪郭を柔らかく浮かび上がらせ、美しい夜景をつくります。エリアごとに光の変化をデザインし、移動しながら様々な光に出会える安心で快適な光環境を目指します。またフルカラー照明により日常では時の移ろいを感じられる穏やかな夜をつくり、一方、横浜DeNAベイスターズが日本一になったときのような特別な日にはまちじゅうが一斉に色づく祝祭感のある光の演出を目指してまいります。

○武田勝久委員 ヨルノヨに象徴されますように、本市の夜景というのはプログラムがシステム連動して、音楽とのリンク、そしてダイナミックにカラーチェンジするなど他都市にはない楽しみ方があり、横浜の魅力であると思います。さらに発展できる可能性を秘めており、例えばベイブリッジなどとも連携できると面白いかなと思います。美しい夜景は、まち全体が一体となって構成をするものです。行政による公共空間の照明だけでは不十分であり、周辺の民間建物や地域の理解や協力が欠かせません。多くの民間事業者等を巻き込んで継続的に取り組んでいく必要があります。水際線の未来を見据えた長期的な取組を市としてぜひ進めていただきたいと思います。

そこで、夜も魅力的な水際線を実現していくために市としてどのような思いで取り組んでいくのか、これは副市長に意気込みをお願いいたします。

○佐藤副市長 現在の夜景は開港以来、先人たちが築き上げてきた美しい町並みが生み出したものだと感じております。さらに夜景を生かしたイベントなどの取組も評価されまして、日本新三大夜景都市に選定されましたことは大きな機会とも捉えております。今後も地元、地域、民間事業者の皆様と一丸となりまして、さらに魅力的な町並みや夜景を築き上げていきたいと考えております。

○武田勝久委員 夜景の魅力発信におきましては、やはり視覚に訴えることが重要であると思います。PRにおいて動画コンテンツなどの活用も積極的に進めていただくことを要望しまして、次の質問に移ります。

次に、三溪園について伺います。

スライドを御覧ください。(資料を表示) 本年度で開園120周年を迎える三溪園は横浜を代表する歴史と文化の拠点であり、四季折々の景観を楽しめる横浜の大切な財産であります。この写真は三溪園の写真スポットで、桜の時期であります。今月末から桜のライトアップイベントも行われるということです。先日、私は数年ぶりに三溪園を訪問し、視察させていただきましたが、季節の花々や水辺空間に心を癒やされ、都会の中でこのような落ち着いたスポットがあることはとても魅力的だと改めて感じました。三溪園を造成した実業家の原三溪は京都や鎌倉などから価値の高い建造物を移築し、地形を生かして巧みに配置をしました。全国でもまれに見る10棟の国の重要文化財を要するなど、庭園自体も国の名勝に指定された国を代表する和の観光拠点です。TICADの開催時など世界の賓客を迎える際にも三溪園が活用されております。こうした価値、魅力を将来にわたって確実に継承していくためには重要文化財の保存は必要不可欠です。そして来年度は予算も増額をさせてライトアップや和文化体験などさらなる磨き上げに取り組み、より一層の来園者増につなげるとしております。

そこでまず、来年度の取組内容について担当理事にお伺いいたします。

○市川担当理事 国の重要文化財でございます旧矢筈原家住宅や旧燈明寺三重塔、国の名勝に指定されております庭園の修繕に加えまして、市指定有形文化財鶴翔閣の屋根修繕などを実施いたします。また文化財の特別公開、ライトアップの充実や季節の花を生かした演出、さらに和装レンタルや茶道などの和文化体験プログラムの提供、I

P連携による新しい客層の取り込みなど、幅広い世代の多くの方々に御覧いただけますよう三溪園の価値と魅力の向上に取り組んでまいります。

- 武田勝久委員 一方で、現在どれだけの方がお越しになっているのでしょうか。先日の予算関連質疑では、令和11年度末までに年間50万人の来園者数を目指すと山中市長は答弁をされておりました。コロナ禍前は40万人以上の来園者がいたとのことでしたが、そこで、コロナ禍以降の来園者数の状況について担当理事にお伺いいたします。
- 市川担当理事 今お話しいただきましたように、コロナ禍前の平成30年度におきましては約40万人の入場者でしたけれども、その後、コロナの影響を受けまして減少傾向となり、令和2年度には約22万人まで大きく落ち込みました。その後、コロナ禍が明けた令和5年度は約30万人となりましたが、令和6年度においても横ばいの状態が続いております。
- 武田勝久委員 次のスライドです。こちらは臨春閣という国の指定重要文化財であります。大正6年に移築された建物で紀州徳川家の別荘と言われております。移築に当たり屋根の形と3つの建物の配置が変更され、池に面して奥にずらしながら連結をしておりますが、この臨春閣の姿は内苑景観の中心となっているということです。この内部は障壁画や数寄屋風書院造りの装飾など元の状態がそのまま残されております。今度のゴールデンウィークにはここの特別公開もされるということでもあります。三溪園にはこのような国の重要文化財や市の指定有形文化財など貴重な資産が豊富にあります。私は今回の視察を通じまして、初めは数多くの貴重な建築物を移築させたりしたのは原三溪のコレクターとしての趣味なのだなどといった見方をしていたのですが、視察の途中で記念館にも寄らせていただきまして、原三溪の生き方、また考えを学んでいきますと、日本の戦争の時代を経て原三溪は横浜の復興に私財を投げ打つたと、自らの身を挺して社会のために尽くしてきたと、後に横浜の恩人というふうに呼ばれるわけなのですが、三溪園についても、決して自分のものではなくて皆さんに貴重な文化に触れてもらいたいのだという思いで一般公開するのです。また若手の芸術家の育成に全力を挙げているといった原三溪の思いに触れますと、より深い目でこの三溪園を感じる事ができたわけでありまして。三溪園を多くの方々に知っていただくためには来園意欲を喚起するための取組が鍵となるのですが、その中で私はもっと原三溪のことを取り上げてもいいのかなと、表に出してフィーチャーしてもいいのではないかなと思っております。背景や思いを知ることは大事でありますので、原三溪を目立たせる例えばアバターなんかをつくって、そしてキャッチーなプロモーションをするほうが若い方には受けがいかもしれませんし、そういうことも踏まえまして三溪園の多面的な価値や魅力を市民や国内外からの来街者に分かりやすく伝えていくことは重要かと思えます。

そこで、プロモーションにもしっかりと取り組むべきと考えますが、局長の御見解を伺います。

- 足立にぎわいスポーツ文化局長 今委員からもいろいろなアイデアをいただきました。ありがとうございます。三溪園は重要文化財であります織田家や豊臣家、徳川家

ゆかりの茶室や数寄屋を有する国指定名勝の庭園であります。季節に応じた様々なイベント、催事もこれまでも実施してきております。先ほども来年度の取組を御説明させていただきましたが、来年度は価値、魅力の磨き上げに取り組んでいった上で、そうしたものをGREEN×EXPO 2027と連動しましたJRグスティネーションキャンペーンなども活用しながら戦略的、効果的にしっかりプロモーションに取り組んでいきたいと考えております。

○武田勝久委員 より多くの方々に三溪園を訪れていただくチャンスがこれから来るわけですが、視察をしまして駐車場など混雑時の課題であったり、また南門側に行きました。その辺りももっと整備できないかなといった課題も現地で感じましたので、今後の取組に注目しまして、次の質問に移ります。

次に、MICEにおけるサステナビリティ対応力強化について伺います。

2024年に横浜市内で開催された国際会議の参加者総数は21万人となり、都市別順位は2年連続で国内トップとなりました。また本市を代表するMICE施設であるパシフィコ横浜も開催件数、参加者数とも施設別の1位となり、まさに国際会議といえは横浜市という地位を確立しております。その強みをさらに生かしていく必要があります。令和8年度はさらなる誘致に向けた受入れ環境整備としてサステナビリティへの対応力強化に取り組むとのことです。

そこで、サステナビリティへの対応力強化に取り組む経緯について観光MICE振興部担当部長にお伺いいたします。

○正木観光MICE振興部担当部長 MICEの開催は人や物の大きな移動を伴うため、環境負荷が高いことが課題とされています。昨今、特に国際会議の主催者は環境分野をはじめとするサステナビリティに配慮した取組を開催地に求める傾向が強くなっています。そのためMICEにおけるサステナビリティに対応できることが開催地として選ばれる大きな要素となってきています。

○武田勝久委員 時代の要請に応えていくことは重要だと思います。ここでスライドを御覧ください。（資料を表示）こちらはパシフィコ横浜で使用している、ちょっと分かりづらいですが、全て紙素材でできている100%リサイクル可能なサインボードです。環境に優しい取組であります。このほかにもパシフィコ横浜の取組として、令和6年度にはエネルギー使用に伴うCO₂排出量実質ゼロを達成、また令和7年度には日本のMICE施設で初めて持続可能なイベント運営の国際基準ISO20121を取得するなど最先端の取組であり、国内外の競合都市と差別化ができる強みとなっております。一方でMICE開催を下支えするホテル、宿泊、飲食、交通や物流、デザイン、印刷、そういったものをはじめ幅広い事業者の方々にもサステナブルな取組をしていただくことが必要です。

そこで、サステナビリティ対応力強化に向けた具体的な取組について局長にお伺いいたします。

○足立にぎわいスポーツ文化局長 サステナビリティに取り組む市内事業者を増やしていくために横浜市観光協会が主体となりまして事業者の発掘や商品造成、主催者

とのマッチング支援を行っております。また主催者向けにサステナブルな物やサービスを提供できる事業者のリストの充実を図っております。より積極的な活用を促すために市内事業者から調達する場合の助成制度も新設いたします。

○武田勝久委員 開催都市全体としての強化ということではありますが、国際会議のさらなる誘致に向け、近年は都市間競争がますます激化しています。常に世界的なトレンドを捉え、いち早く対応していくことが必要です。

そこで、日本を代表するMICE都市としてサステナビリティへの取組をリードしていく意気込みを局長にお伺いいたします。

○足立にぎわいスポーツ文化局長 日本のMICEをリードする都市横浜にとりまして、国際的なスタンダードになりつつあるサステナビリティに対応することは必要不可欠であると認識しております。MICEの場におけるサステナブルな取組の実践を積み重ねることで主催者や参加者へサステナブルなMICE都市横浜としての認知を広め、国際的なMICE都市としての地位の確立を目指していきたいと考えております。

○武田勝久委員 市内経済の活性化につながることも期待しまして、次の質問に移ります。

次に、横浜能楽堂について伺います。

横浜能楽堂が約2年にわたる大規模改修工事を経て、この6月末に再開館を迎えることと先日発表されました。工事に入る前の令和4年度決算特別委員会では、我が党の高橋正治議員が質問をしております。ここでスライドを御覧ください。（資料を表示）横浜能楽堂の本舞台は1875年に建てられた旧染井能舞台を移築したもので、横浜市の指定有形文化財にも登録されております。平成8年、横浜市内に能楽堂をという市民の強い要望により建てられまして、本年で開館30年を迎えます。敷居は低く奥行きは深くをコンセプトに、幅広い方へ能と狂言を楽しんでもらえる事業を行っており、まさに横浜市で大事に守ってきた能楽堂であると言えますが、そこで、横浜能楽堂の改修工事の意義について局長にお伺いいたします。

○足立にぎわいスポーツ文化局長 今回の改修工事は文化財として極めて貴重な本舞台を適切に保存し、施設の安全性や機能性を高めることで芸術としての能、狂言、そしてそれを演じる空間を次世代へ確実に継承していく、そうしたことを目的としております。横浜の文化振興はもとより日本の文化振興にとっても大きな意義があると考えております。

○武田勝久委員 再開館を心待ちにされていた市内外の文化関係者や鑑賞者からも大きな期待が寄せられていると思います。そこで、再開館後の事業内容について文化芸術創造都市推進部長にお伺いいたします。

○岡文化芸術創造都市推進部長 再開館記念式典を横浜能楽堂開館30周年に当たる6月28日に予定をしており、抽せんにより市民の皆様を御招待していきます。その後、7月4日を皮切りに各流派を代表する演者による記念公演を順次実施していきます。また7月以降、施設見学会の開催も予定しており、詳細がまとまり次第公表してまいります。

ます。

○武田勝久委員 私もぜひ参加させていただきたいと思います。

私の地元磯子区には久良岐能舞台というものがあり、訪れる機会もございます。日本の伝統文化に触れられる場があり、それを守っていくことが重要です。ここでスライドを御覧ください。横浜能楽堂の閉館期間中には能、狂言を知っていただく目的でOTABISHO横浜能楽堂がみなとみらい地区のランドマークプラザに設置をされました。私も訪問してまいりましたが、新たに能や狂言に興味を持つ方がいらっしゃったなど大変好評だったと聞いております。OTABISHO横浜能楽堂は今月末で閉館になるということですが、そこで、OTABISHO横浜能楽堂で得た経験の生かし方を局長にお伺いいたします。

○足立にぎわいスポーツ文化局長 工夫を凝らしました展示やオリジナルグッズの販売、体験型の講座の実施などにより、約2年間で4万人を超えるお客様に能、狂言を身近に感じていただきました。今後この経験を生かし、新しい能楽堂で能、狂言に触れる機会を新たに創出するとともに、能楽堂以外の身近な文化施設等でも講座や公演などの充実を図り多くの市民の皆様はその魅力や奥深さを実感していただきたいと考えております。

○武田勝久委員 伝統芸能を取り巻く環境は変化をしており、伝統継承の課題がある一方で鑑賞される方の多様化、国際的な発信の強化など施設運営にも新たな視点が求められていると考えます。横浜能楽堂としても、これまでの歴史や文化的価値を継承しつつ、時代の要請に対応していく必要があると思います。

そこで、今後、横浜能楽堂はどのような点に力を入れていくのか、局長にお伺いいたします。

○足立にぎわいスポーツ文化局長 横浜能楽堂の歴史や文化的価値を確実に継承しつつ、これまでも力を入れて取り組んできました年齢や障害の有無などを問わず楽しんでいただける公演を一層充実させていきます。さらに誰でも気軽に能楽堂を楽しむことができるよう施設見学会を積極的に実施するほか、いつでも自由に御覧いただける展示の充実などより開かれた横浜能楽堂を目指してまいります。

○武田勝久委員 最後に、子供の文化体験について伺ってまいります。

子供たちの可能性は無限大であります。子供たちにとっての体験はその後の人生を豊かにするために極めて重要なものです。このネット社会、SNS、バーチャル空間の普及は確かに便利ではありますが、リアルなものに触れていくことは大事で、肌感で感性を磨いていくことが重要と考えます。令和8年度予算において文化体験の充実を通じた次世代育成を掲げております。

そこで、改めて子供たちに文化体験を提供する狙いについて局長にお伺いいたします。

○足立にぎわいスポーツ文化局長 成長の早い段階で様々な文化に触れることは豊かな感性や創造性、表現力やコミュニケーション力などを育む上でとても重要だと思っています。また多様な体験を通じて自分の興味や得意分野に気づき、将来の可能性を主

体的に見いだす上でも大きな意味を持つと考えています。そのため家庭環境や障害の有無などによらず、誰もが身近な場所で様々な文化体験ができる機会を市全域で提供していきたいと考えております。

○武田勝久委員 新規事業として子どもアートセンター等実施事業が計上されております。これまで実施してきた小中学校や令和6年度からは放課後キッズクラブ等の子供の居場所での文化体験プログラム、さらに加えて子供たちの文化体験機会が拡充をされるということで私も大変期待をしております。

そこで、新たに子どもアートセンターを開始する目的について局長にお伺いいたします。

○足立にぎわいスポーツ文化局長 これまで学校の授業や放課後キッズクラブなどで事業を展開してきましたが、新たに学校のない休日などにも文化体験機会を創出することが目的です。気軽に立ち寄れる身近な場所におきまして定期的に文化体験を提供する民間団体の取組を子どもアートセンターとして認定することで、文化活動に接する子供たちを増やしていきたいと考えております。

○武田勝久委員 新しく施設をつくるということではなくて既存の施設や居場所を活用して実施をするということです。初年度はモデル的に市内を6か所予定しているとのことです。

そこで、具体的にはどのような事業を想定しているのか文化芸術創造都市推進部長にお伺いいたします。

○岡文化芸術創造都市推進部長 この事業はハード整備への支援ではなくて、民間団体が子供たちに文化体験を提供するソフト事業に対して支援を行うものです。現在、市内の地域子育て関連団体等へヒアリングを行っていますけれども、具体的には文化活動団体が公共施設等の場を確保し実施する取組、あるいは既存の居場所である子ども食堂等で実施する取組などを想定しております。

○武田勝久委員 こうした子供たちへの文化体験、さらにスポーツや音楽、ダンス、学びの体験を提供する事業を横浜市は積極的に進めていると感じております。子供の選択肢はできるだけ広いほうが子供たちも自分の可能性に気づく機会も増えると思います。私は5歳の息子が今いるのですが、最近空手にはまりまして、親としましては、えっ、空手ということでちょっと意外だったのですが、そういった親からすると想定外のところにも興味を示す可能性もあるということで、子供のうちはできるだけいろいろなことを体験させてあげたいと思うわけですが、その意味で様々な体験の機会を提供できる横浜市は子育て環境としても魅力的と言えるのではないのでしょうか。

そこで、子供の体験機会の拡充に局を挙げて取り組むべきと考えますが、御見解を局長に伺います。

○足立にぎわいスポーツ文化局長 今委員おっしゃったように子供たちの可能性は本当に広くあると私も思っています。そうした可能性を広げていくためにも、様々なジャンルの体験機会が幅広く提供されていることがとても大切だと考えております。文化分野にとどまらず、スポーツにおけるパラアスリートの学校訪問、MICE開催に合

わせた最先端技術や情報に触れられるワークショップの開催など子供たちが自ら体験し、学べる機会を提供する事業を実施してきました。今後も想像力や好奇心、自己肯定感を育むことができるよう子供の体験機会の拡充にしっかり取り組んでまいります。

○武田勝久委員 以上で質問を終わります。

ありがとうございます。（拍手）

○小松範昭副委員長 次に、藤崎浩太郎委員の質問を許します。（拍手）

○藤崎浩太郎委員 立憲民主党・無所属の会の藤崎浩太郎です。よろしくお願いたします。

まず初めに、文化芸術創造都市について伺ってまいります。

先日、文部科学省が発表しました国立美術館等の第6期中期目標では自己収入の目標値が定められ、4割を下回ると再編されるということまでが示されました。大きな反響を呼んでいるようで、文部科学省のほうもQアンドAなんかを出しながら、火消しというか誤解のないようにしたいという感じが伝わってきますが、全国的にも予算不足を背景にして美術館とか博物館の廃止をどうするか、維持をどうするかという議論が大きいのしかかかっているところでもありますけれども、私としましては、横浜市はもっと文化芸術の予算を通してもいいのではないかとこの考えから質疑を行っていきたく思いますので、よろしくお願いたします。

文化芸術が福祉や教育、まちづくり等と連携することによって新たな価値を創出することが注目をされて、公共が文化芸術に予算を支出することについても、その重要性や必要性が指摘されてきました。文化芸術への支出は慣習や政策にとどまらず、人や社会の多様性を受け入れることや、そして排除や分断ではなく社会包摂の推進や民主的な社会の推進のために必要だと考えます。本市としてもこの役割をしっかりと評価して、より一層文化芸術施策に取り組む必要があると考えますが、まず、本市における文化芸術創造都市施策の意義を局長に伺います。

○足立にぎわいスポーツ文化局長 文化芸術は都市における課題に対して幅広いアプローチを示すことができると考えています。そこで、本市では文化芸術振興と経済振興、またはまちづくり、そうしたものを結びつけた文化芸術創造都市施策に全国に先駆けて取り組んでまいりました。横浜らしい特色ある文化芸術を内外に発信することを通じまして地域コミュニティの活性化やにぎわい創出等につなげることが文化芸術創造都市施策を推進する意義であると考えております。

○藤崎浩太郎委員 ありがとうございました。政府が2011年に示しました文化芸術の振興に関する基本的な方針の第3次において、文化芸術性の公共投資が社会関係資本の増大に寄与することですとか社会包摂の機能への言及がなされてきました。多様化する社会において社会包摂や社会関係資本の増大は重要な視点と考えますが、そこで、本市の文化政策において社会包摂や社会関係資本の増大についてはどのように捉えられてきたかを局長に伺います。

○足立にぎわいスポーツ文化局長 障害の有無や年齢、性別等に関わらず文化芸術に触れる機会や活動に参加できる環境を整えることは共生社会の実現や地域コミュニティの活性化を目指す上で大変重要だと考えております。これまでも空間のバリアフリー化、障害の特性に応じたサポートの提供、区民文化センターの運営等を通じた文化芸術をテーマとした住民同士の交流や協働、そうしたことに取り組んでまいりました。今後も引き続き文化芸術の力を暮らしやすい地域づくりに生かしてまいります。

○藤崎浩太郎委員 ありがとうございます。いろいろとおっしゃっていただくのですが、まだまだ社会包摂とか先があるのではないかと考えています。もっとできることがあるのではないかとと思うので、予算が必要であれば、予算がないからできないのであれば、もっと予算を頑張ってもらいたいということもあると思いますが、今年度、にぎわいスポーツ文化局では横浜未来の文化ビジョンを策定中です。このビジョンは今後10年間の横浜の文化政策の方向性を定めるものとなります。ビジョンの本文を拝見しますと社会包摂という言葉は使われていないわけですが、そこで、横浜未来の文化ビジョンにおいては社会包摂に関する技術や取組がどのように盛り込まれているかを文化芸術創造都市推進部長に伺います。

○岡文化芸術創造都市推進部長 横浜未来の文化ビジョンの素案においては社会包摂という用語は使用しておりませんが、柱の一つである誰もが自分の夢に向かって勧めるまちの中で、障害の有無や年齢、性別、国籍などに関わらず、誰もが希望に応じて文化活動に参加できる環境整備、こういうものを目指してございます。また実現のための施策として障害者の個性と能力の発揮の機会の創出、誰もが自由に文化を楽しめる環境づくり、こういったものを盛り込んでございます。

○藤崎浩太郎委員 ありがとうございます。局長、通告外ですけれども、今御答弁を伺ったので、私も一応読んだので、いろいろ書かれているのは分かるのですが、アウトプットが書いてある感じですよ。これまで、今、横浜市はアウトカム指標を次期中期でも盛り込んでいくということで、やはり多様な人が参加できるとか誰もがみたいな言葉があって、参加すれば多様性が確保されるわけでも、参加していれば社会包摂が実現するわけでもないと思いますので、先ほど来、意義とかいろいろお答えいただきましたけれども、10年後の姿を示すビジョンにおいて、もちろん法体系にもものとして、法律の下でやるわけですけれども、我々横浜市の意思がどこにあるか、アウトプットではなくて、どういったアウトカムにつなげていきたいかをしっかりと分かりやすく伝えていく必要があると思います。そういう意味では、社会包摂を目指すとか、そういったことも記入していく必要があるのではないかとと思いますが、局長の考えを伺います。

○足立にぎわいスポーツ文化局長 ありがとうございます。何をやるかよりも、最後に参加した方や、そうしたことに関わる方たちがどんなことを感じて、自分のものとしていただけるかは非常に大事だと思っております。もちろん実際に取り組む取組の中でも、そうしたことをどう組み込んでプログラムとして提供するかは大事だと思いま

すし、方針として今回の横浜未来の文化ビジョンでどういう言葉で発信していくかというのは非常に大事だと私も思っておりますので、今委員からいただきました御意見も参考にさせていただきますして、取りまとめを進めていきたいと思っております。

○藤崎浩太郎委員 よろしく申し上げます。せっかくビジョンをつくるので、我々が何を指すのかをしっかりと重厚に書いてもらえるといいのではないかと期待をしておきます。

次に移ります。先日、市民ギャラリーあざみ野の主催で九州大学大学院の中村美亜先生による認知症の人との共創的アート活動という講演を伺う機会がありました。即興演劇というワークショップの手法の有用性が非言語コミュニケーション、そして想像力や記憶力の喚起、創造性といった視点から示され、当事者のみならず、ケアスタッフにも意識や態度の変化を促していくということが示されました。この事例のように文化芸術と福祉の連携、共創は今後期待できる分野ではないかと考えています。現在、市民ギャラリーあざみ野など一部で取り組まれているところですが、これまで培ってきた文化芸術と福祉が連携した事例をさらに市内に広げていくべきと考えますが、局長の見解を伺います。

○足立にぎわいスポーツ文化局長 市民ギャラリーあざみ野で実施されました認知症の方がゆっくりと自分のペースで鑑賞できるやさしい美術鑑賞会につきましては、他の施設でも実施できるツールとしてガイドラインをまとめております。また、横浜みなとみらいホールにはピアノ初心者でも本格的な演奏が楽しめるだけでもピアノのノウハウも蓄積されてきております。今後こうした各施設での特徴的な取組を市内の他の施設にも広げられるよう取り組んでいきたいと考えております。

○藤崎浩太郎委員 ありがとうございます。ガイドラインとかをつくっていただいて、ほかでもできるようにしていくのは非常に重要ですが、やはり誰がそれをコーディネートできるかとかということもよく落とし込んでやっていただきたいと思えます。箱の中、施設に来てもらう方法をギャラリーではやられてきている部分もありますが、やはり介護施設とか、あらゆるいろいろな作業所とか、いろいろなところにそういうコーディネートできる人が出向いて、福祉と文化芸術の融合みたいなどころに取り組めるような仕組みづくりまでやっていただけないかなと思えます。それは要望しておきます。

外国人など多様な人たちの相互関係の向上という多文化共生の視点においても文化芸術は有効ではないかと考えます。先ほどのビジョン1にも少し書かれてはいるのですが、本市の外国人人口は毎年1万人程度増加している中で国際局等の取組において多文化共生施策が展開されていますが、分断を生まない社会をつくっていくためには文化政策における取組も重要だと考えます。

そこで、多文化共生に文化芸術が果たせる役割も大きいと考えますが、局長の見解を伺います。

○足立にぎわいスポーツ文化局長 文化の力は言語を超えて共感と相互理解を生み、人と人とを結びつけることができると私も思っています。そのため異なる国籍やルーツ

の人たちとの共生社会の実現には文化芸術が果たせる役割は大きいと考えています。各文化事業や施設におきましては海外の文化芸術の展示や公演などを行うとともに、多言語での案内の充実など誰もが気軽に立ち寄り文化活動に参加できる環境づくりを進めることで多文化共生に貢献していきたいと考えております。

- 藤崎浩太郎委員 ありがとうございます。多言語とかは重要なのですがけれども、先ほどの認知症のところも非言語コミュニケーションだからこそ到達できる相互理解があるというのがやはりポイントだったかなと思っています。どうしても言語の壁でコミュニケーションできない、だから多言語化して日本語で伝えよう、それが重要、これは国際局とかが得意としてきたことなので、非言語コミュニケーションをいかに活用できるかというのは文化行政の中でもうちょっと培っていけないかと思っておりますので、そういう視点で期待をしているというところです。

次に行きますが、文化芸術施策と福祉政策等の共創に今後も期待をしているわけですが、そのためにはそれぞれの課題に取り組む各局間で相互に手を携えて推進する必要があると考えます。既に市民ギャラリーあざみ野等での実績もありますが、指定管理者の範囲だけではやり切れないというところもあるのではないかと考えます。

そこで、ビジョンの策定に合わせて文化の力を活用した社会包摂や社会関係資本の充実に、さらに取組を推進すべきと考えますが、副市長の見解を伺います。

- 佐藤副市長 市民の皆様お一人お一人の自由な表現や価値観が尊重される文化活動はあらゆる方々の交流の機会を増やしまして、共生社会の実現や地域コミュニティの活性化、また多文化共生、こういったものにしっかりとつながっていくものであると考えております。今回、横浜未来の文化ビジョンの策定を契機に市全域に文化によるまちづくりの取組を広げまして、全ての市民の皆様が文化の力による共生社会の実現、あるいは人と人とのつながり、言語化されていない福祉活動の中でお互いに認め合い、また交流を深めていく、そういった効果というのも期待できるかなとも思っております。引き続き、福祉、教育、まちづくりなども様々な施策と連動させまして文化政策を推進していきたいと考えております。

- 藤崎浩太郎委員 ありがとうございます。非言語コミュニケーションの部分も今言及していただきました。やはり文化政策のこれまでの文脈でビジョンをつくってきている部分と法体系もこれまでの枠組みの中でありましてけれども、繰り返しですけれども、我々が文化芸術で何を目指していくかというところをもっと多分横浜市のにぎわいスポーツ文化局の皆さんはできるはずなので、それは期待しているので、実現してほしい、もうちょっと頑張してほしいということなのですが、よろしく願います。

少し話が変わりますが、冒頭申し上げました第6期中期目標、国の文部科学省の出したものではインバウンド向けの入館料が国内客より割高となる二重価格を計画期間中に導入することが示されました。海外では既にフランスのルーブル美術館等で二重価格の設定がなされています。インバウンド訪問客が急増する中で、館独自の

収入を確保する上で有効な手段になっていくということも考えられます。

そこで、横浜美術館において二重価格の導入を検討する必要があると考えますが、局長の見解を伺います。

○足立にぎわいスポーツ文化局長 政府が国立博物館、美術館におきまして二重価格を導入するものとする旨、目標策定されたことにつきましては承知しているところで、二重価格を導入した場合は、一般的には財源確保につながるなどのメリットの一方でオペレーションの煩雑化などの課題もあるのではないかと考えているところで、今後、国立博物館、美術館での検討状況、他都市での動向、そうしたものを注視していきたいと考えております。

○藤崎浩太郎委員 ありがとうございます。大体、国が動くとみんな動き始めるということはよくあると思いますので、ほかに後れを取るかどうかという問題ではありませんけれども、我々横浜市として文化政策に使えるお金、横浜美術館の維持に使えるお金をどう確保していくかということは非常に重要だと思いますので、他都市を注視しながらも、我々がどうするか、これは本当によく考えていただきたいということを要望して、次に移ります。

次に、観光消費について伺ってまいります。

2024年の観光の平均消費額は日帰り客が近年ほぼ横ばいで推移している一方で、宿泊客は2023年の4万1558円から2024年は5万553円とおおよそ9000円増加し、顕著な伸びを示しています。さらにコロナ禍であった2020年の1万7000円に比較しますと、おおよそ3倍という状況です。こうした中、背景には消費の内訳ごとの動きが影響しているものと考えており、算出の基となる調査票では交通費や宿泊代、飲食代、お土産代など観光消費の項目ごとに細かく聞かれています。

そこでまず、観光消費額の消費項目のうち、どの項目が伸びて、どの項目が伸び悩んでいるのかを担当理事に伺います。

○市川担当理事 宿泊客の消費項目を見ますと、宿泊費、飲食代、買物代が2023年と比較して伸びておりまして、これらの項目の合計額は3万4481円から2024年には4万3473円と8992円増加しており、伸び率は約26%となっております。一方、日帰り客では交通費は微増となっておりますが、飲食代、お土産代など交通費以外の項目は微減となっており、全体では403円のマイナスで減少率は約6%となっております。

○藤崎浩太郎委員 ありがとうございます。市全体の観光入込客数と観光消費額の2023年からの増加率を見ますと、観光入込客数が173万人の増加で4.8%の伸びですが、観光消費額は897億円の増加で24.5%と大きく伸びています。これはやはり宿泊客、特にインバウンドの宿泊客による消費が貢献していると考えられますが、宿泊施設にはキャパシティがあるため、宿泊客の増加にも一定の上限があるはずでございます。宿泊延べ数は2024年の調査では980万人泊とのことですが、現状のホテル、客室数を踏まえると最大でどのぐらい延べ宿泊客数が望めるのかを担当理事に伺います。

○市川担当理事 本市の調べでございますが、2025年1月時点のホテルの客室数は約2

万3000室となっております。例えばホテル稼働率が約9割で、2人の客室利用と1人での客室利用が半分ずつと仮定いたしますと、その上で延べ宿泊者数を試算すると約1100万人泊となります。この数値が市内宿泊のおおむねのキャパシティの現状だと考えております。

○藤崎浩太郎委員 ありがとうございます。大体120万人ぐらい増やせるキャパがあるということで、今平均が1.9泊ぐらいですよ。だから、入込客数、宿泊客数を正味増やせるのが60万人ぐらいということかと思えます。これまでの入込客数が2024年で3773万人ですから、そこから60万人ぐらい増やせるというところで、宿泊客数が510万人ぐらいのところを570万人ぐらいに増やせるということかと思えます。単価は高いのですけれども、やはり伸びの幅がどうしても小さいので、これからどうやって消費需要の大きい宿泊客を増やしていけるか、獲得できるかが大きなポイントになりますし、観光振興の重要な要かと思えます。

そこで、今後の宿泊客数の獲得の考えを局長に伺います。

○足立にぎわいスポーツ文化局長 直近の市内ホテルの平均稼働率は約85%と高いものの、ホテル業界からは平日の宿泊獲得に力を入れてほしいといった声が多くございます。このことから曜日に左右されない記念日のお祝いニーズと横浜の町並みとの親和性を生かした取組をさらに強化してまいります。加えて平日の宿泊増が期待できるMICEの誘致強化や横浜発着のクルーズ客の宿泊促進に取り組み、滞在日数が長く消費額も高いインバウンド客獲得を目指してまいります。

○藤崎浩太郎委員 ありがとうございます。今つくっている次期中期計画でもホテルの誘致というものを書かれています。局としては経済局マターになるそうですが、にぎわいスポーツ文化局としてもしっかりとホテル誘致ができないと増えないので、そこにもしっかりと取り組んでいただきたいと思います。次に移ります。

次に、DMO推進事業と水際線のにぎわいづくりについて伺ってまいります。

本市のDMO設立から3年が経過し、DMOの大きな役割として期待されてきたことがデータ分析に基づいて地域での観光消費の拡大を図っていくということでございますが、現在、横浜市観光協会では人流データの活用などが行われています。そこで、どのようなデータを分析、活用して観光施策に展開し、どのような成果が得られているかを担当理事に伺います。

○市川担当理事 昨年度、DMOである横浜市観光協会にマーケティング専門部署をつくりましてデータ分析を施策展開につなげております。例えば横浜への来訪目的などのデータ分析を踏まえまして、先ほど局長も触れましたが、特別な日を横浜で過ごしてもらおう記念日事業を開始いたしました。そして平日の宿泊獲得という成果が出ております。また事業者のデータ分析支援も行っておりまして、民間主催イベントの人流分析では定量的な把握や成果の可視化ができ、役立ったという事業者からの声もいただいております。

○藤崎浩太郎委員 ありがとうございます。事業者と連携してデータを活用しているということがありました。現在、水際線まちづくりに都市整備局とかと一緒に取り組ん

でいるわけですが、にぎわいスポーツ文化局もこのプランの策定に関わるに当たって、得られた人流データとかをいかに活用できているのかというところが非常に重要ではないかと考えています。特にどこで人が泊まっているのかとかの人流データをちゃんと使っていないと、幾らハード整備しても結果的に人が動かないと、こうなっては困りますので、そういった役割はにぎわいスポーツ文化局にあると思います。

そこで、水際線まちづくりコンセプトプランの策定においてにぎわいスポーツ文化局がどのように役割を担っているかを担当理事に伺います。

○市川担当理事 (仮称) 水際線まちづくりコンセプトプラン素案の策定に当たりましては、都市整備局を中心にみどり環境局や港湾局などハード局とにぎわいスポーツ文化局が一体となって取り組みました。にぎわいスポーツ文化局では様々な大規模集客イベントの開催、支援を通じまして、例えばイベント時の動線や利用実態、利用者の声などを把握しておりますので、そうした知見をプランに反映させております。

○藤崎浩太郎委員 ありがとうございます。せつかく整備するので、つくってみたら使えなかったということがないようにしていただきたいですし、やはり意図しているものと実態が合わないと結局絵に描いた餅になりかねません。そういう意味で水際線のにぎわいづくりについてはにぎわいスポーツ文化局がしっかりと積極的に関わるべきだと考えますが、局長の見解を伺います。

○足立にぎわいスポーツ文化局長 にぎわいスポーツ文化局では、様々な民間事業者が実施する大規模なイベント時の人流データをDMOとともに把握してきております。今後、水際線の磨き上げを進めていくに当たりましては、そういったデータも活用しながら具体的な計画の中に落とし込む、そうしたことをしながらハード局とともに水際線のにぎわい創出の土台づくりを進め、しっかりと市内経済の活性化につなげていきたいと考えております。

○藤崎浩太郎委員 よろしくお願いします。今、テナントビルつくるときも先に入居者を決めてからテナントビルをつくるなどはよくある話ですから、やはり使う人とつくる人の意思が合わないと使ってもらえないというもったいないことになってほしくないということでございますので、どうぞ御尽力いただければと思います。

予算案では回遊性という言葉が頻繁に使われてきました。次期中期計画でも観光消費額を5500億円にすることが目標とされています。水際線の魅力はさらに磨き上げられているという中で、消費額は全然伸びていない日帰り観光客の消費を促す取組が必要です。

そこで、日帰り観光客の立ち寄り箇所数の現状と課題をどう認識し、向上のためにどんな取組をしているのかを局長に伺います。

○足立にぎわいスポーツ文化局長 令和6年度の調査によりますと、日帰り観光客の平均立ち寄り箇所数は1.66か所となっております。この立ち寄り箇所数を増やし、滞在時間を延長させ、消費につなげていくことが重要だと考えております。そのため例えばIPコンテンツと連携した回遊施策では複数のフォトスポットの設置やキャンペー

ン対象エリアを意識的に広く設定し、来街者が楽しみながら様々なエリアの観光施設に立ち寄る仕掛けをするなど戦略的に回遊施策を展開しております。

○藤崎浩太郎委員 ありがとうございます。その回遊性の一環で今年度は早朝の朝活のコンテンツづくりに取り組まれてきました。宿泊需要だけでなく日帰り消費の増加にも期待できますけれども、今度、朝から昼に継続して滞在してもらえるかどうか。朝6時に気球に乗って、朝6時に海に行って、7時から何したらいいのだという状況もあると思います。

そこで、モーニングコンテンツの実施に当たってはほかの観光事業者と連携することでさらなる市内観光消費を喚起する施策として磨き上げていくべきと考えますが、局長の見解を伺います。

○足立にぎわいスポーツ文化局長 今年度試行的に取り組みましたクルーズや熱気球体験において参加された方々へアンケートを実施しております。その中で朝食や観光、特別な体験をセットで楽しみたいというニーズが多く見られました。こうしたニーズを踏まえまして、今後は商業施設、ホテル、レストラン等と連携したプランの作成など地元企業との連携を強化し、より魅力のあるコンテンツに磨き上げることで市内の観光消費の一層の促進にもつなげてまいります。

○藤崎浩太郎委員 ありがとうございます。本当に日帰り客の消費額が少ないということで、今スライドを用意させていただきましたが、（資料を表示）2024年の横浜市の日帰り観光消費が1人6077円、一方で観光庁が出している国全体の1人当たり平均から交通費を抜いても9593円となります。非常に差があって、国のほうが飲食代と買物代だけ足しても6500円ぐらいですから、横浜市は前向きに考えれば非常に伸び代があるということだと思います。先ほどもDMOのマーケティングのお話をしましたが、まだまだDMOと連携してデータ活用してマーケティングをしっかりとできるのではないかと、消費を増やせるのではないかとと思いますが、そこで、DMOのマーケティング機能の強化の方向性を局長に伺います。

○足立にぎわいスポーツ文化局長 これまで観光に関わるデータをレポートやセミナー、ワークショップの開催などで発信し、地域や観光事業者と共有し意見交換を重ねてきてございます。今後は観光事業者などの具体的な経営課題をDMOとして把握し、様々なデータ分析により、サービス改善などにつなげる取組を強化していきたいと考えています。DMOのマーケティング機能をしっかり強化しながら、それを軸に多様な事業者と連携した観光施策を進め、観光消費の拡大、市内経済の活性化を目指していきたいと考えています。

○藤崎浩太郎委員 とにかく消費が増えるように頑張ってくださいと思いますので、よろしくをお願いします。

以上です。（拍手）

○小松範昭副委員長 次に、坂井太委員の質問を許します。（「頑張れ」と呼ぶ者あり、拍手）

○坂井太委員 日本維新の会の坂井太であります。よろしくお願いいたします。

以前、横浜芸術アクション事業の一つのDance Dance Dance@YOKOHAMAの横浜ベイサイドバレエを見る機会がございました。横浜港の景観と一体となった舞台に強く感動したことを覚えております。その後、横浜音祭りとともに新たな後継事業として進められたLive!横浜がこの4月に開催されると伺っております。Live!横浜は横浜ベイサイドバレエのように大型な自主公演を行う代わりに民間の大規模集客イベントと連携し開催することで民間の集客力や発信力を取り込み、にぎわい創出を図る事業と聞いております。手法を転換して新しく進めていく事業である以上、どのような効果を見据えて組み立てていくのが重要だと考えております。行政施策として実施するのであれば、単純に集客だけでなく文化の振興や市民への還元など公益的な視点が必要だと思います。

そこで、第2回Live!横浜の実施内容と狙いについて伺います。

○足立にぎわいスポーツ文化局長 第2回Live!横浜は高い集客力を持つ都市型音楽フェスCENTRALと連携して開催いたします。Kアリーナ横浜や赤レンガパークなど4か所のフェス会場をつなぐ公共空間でLive!横浜を展開し、まち全体でにぎわいと回遊を創出します。音楽やダンスのステージや楽器体験など無料で参加、体験できる場を多く提供することで市民参加、次世代育成など横浜芸術アクション事業のレガシーをしっかりと継承するとともに、地域経済の活性化にもつなげていきたいと考えています。

○坂井太委員 集客力のある民間興行と一体的に企画してにぎわい創出を図るという点は、行政のイベントとしては新しい視点であると評価できます。ただ一方で、私が感動した横浜ベイサイドバレエのように、伝統的な音楽やダンスなどはやりに左右されない文化芸術に触れる機会を確保することも文化都市として引き続き取り組むべき施策ではないかと考えています。私は以前、ローマのカラカラ浴場でオペラ「マダム・バタフライ」を鑑賞いたしました。言葉の意味は分かりませんが、歌声や仕草だけで作品の世界へ引き込まれ、深く感動したのを覚えております。プロのアーティストが生み出す作品には人の心を揺さぶり、深い感動を与える力があると感じるとともに、そのような国際レベルの本物に触れる機会をつくることも重要性を強く感じた体験でありました。人々が本物に触れるためにはアーティストが創作活動で生計を立て、作品を継続的に発表できる環境も必要であります。残念ながら日本ではまだそうした土壌が十分ではないと感じています。

そこで、芸術作品を生み出すアーティストがより一層活躍できる環境を整備していくことが必要と考えますが、局長の見解を伺います。

○足立にぎわいスポーツ文化局長 これまでもアーツミッション・ヨコハマにおきましてアーティストのための相談窓口の運営、キャリア形成支援、企業や行政とのマッチングなどを行ってまいりました。また創造界隈拠点では、アーティストの滞在制作や展覧会の開催などの取組を積み重ねてきております。今後もアーティストがより一層活躍できる環境づくりに取り組んでいきたいと考えています。

○坂井太委員 横浜は芸術に一番優しいまちであってほしいと思います。アーティストが作品を披露できる場があり、それを楽しみ、作品を購入してくれるファンが現れてこそアーティストが育っていくと思います。将来的には東洋のパリ、ローマと呼ばれるような文化芸術都市を目指すくらいの気概を持ちながら、5年後、10年後、100年後を見据え、取組をさらに加速していただくことを期待して、次の質問に移ります。

次に、観光における他都市連携について伺いをいたします。

令和6年12月に横浜市は北九州市、長崎市とともに日本新三大夜景都市に選出されました。私自身も生まれは横浜ですが、北九州市は曾祖父が暮らしておりましたので、個人的には大変うれしい話でありました。日本有数の夜景といえば、通常は山など高いところから見下ろす景色をイメージしますが、山から見下ろす夜景ではなく横浜市の夜景が選ばれたことは正直驚きでしたし、大変喜ばしいと思っております。

そこでまず、横浜市が日本新三大夜景都市に選出された理由について伺います。

○市川担当理事 夜景そのものの魅力はもちろん、地域の皆様とともに取り組んできましたヨルノヨや1年を通して実施される花火など横浜が誇る都市景観を存分に生かした多様な施策が評価されたと考えております。また臨海部で進む様々な再開発をはじめ、都市の変化とともに変貌する夜景の流動性の魅力など新たな魅力が増している点も評価いただいたところでございます。

○坂井太委員 日本新三大夜景都市という言葉は文字通り三都市しか名のれないわけですから、この機会にぜひ横浜の夜景の魅力を広く全国の皆さんに知っていただきたいと思っております。

横浜市では様々な集客プロモーションを展開していますが、今後より横浜観光の魅力を全国に発信していく上で他都市との連携も重要だと考えています。連携することで複数の都市を巡る旅行者の行動に合わせて広域的に魅力を発信できるため、集客力が高まり、滞在時間の延長、消費額の増加につながると考えます。また各都市がそれぞれ単独で取り組むよりも大規模プロモーションを展開することができ、横浜の魅力と他都市の魅力を掛け合わせた旅を国内外の方々に提供できるのではないのでしょうか。

そこで、日本三大夜景都市に選出された三都市が連携して集客プロモーションを取り組むべきと考えますが、見解をお伺いします。

○足立にぎわいスポーツ文化局長 これまで日本新三大夜景都市に選出された三都市が共同で作成したポスターやパンフレットのほか、インスタグラムなどを活用したプロモーションを展開してまいりました。今後も引き続き三都市が一体となってプロモーションすることで相互誘客にもつながると考えております。一層の連携に取り組んでいきたいと考えています。

○坂井太委員 さらに県内においても連携が重要だと考えております。神奈川県は鎌倉や箱根など全国的にも人気の高い観光地を抱えております。またGREEN×EXPO 2027開催のタイミングでは、会場への誘客と会場からの周遊促進を目的としてJRと共同で神奈川・横浜デスティネーションキャンペーンを開催すると伺っております。

そこで、デスティネーションキャンペーンにおける県内連携について伺います。

○足立にぎわいスポーツ文化局長 デスティネーションキャンペーンは横浜市、横浜市観光協会、神奈川県、神奈川県観光協会が中心となりJRグループと連携して取り組みます。県内の各市町村につきましても、神奈川県や観光協会を通じてこの取組に参加されます。そのような中で、例えば各市町村の観光資源と横浜の観光資源をつなぎ合わせたツアーを造成することでより一層魅力のある旅行商品を生み出すこともできます。このキャンペーンを通じまして県内連携にしっかり取り組んでいきたいと考えております。

○坂井太委員 現在、神奈川県では横浜、箱根、鎌倉に続く新たな観光エリアとして三浦や大山などもさらに磨き上げ、取り組んでいると聞いております。箱根や鎌倉など既に有名なエリアだけではなく新たな観光エリアもしっかりと連携しながら、横浜の魅力伝えていただくことを期待して、次の質問に移ります。

次に、eスポーツについて伺います。

私はゲーム機が1台あれば始められるeスポーツに大いなる魅力と可能性を感じております。にぎわいスポーツ文化局では商業施設や区民まつりをはじめ、多くの区民の皆様が集まる機会を捉え、体験機会を行っているということですが、小さなブースでもプレーを希望する行列が常に途切れないそうであります。

そこで、まず初めに、eスポーツを活用した地域の取組の狙いについて伺います。

○足立にぎわいスポーツ文化局長 eスポーツは国籍、性別、年齢、障害の有無等を問わず誰もが参加できるという特徴を持ったコミュニケーションツールであると考えています。そのeスポーツが持つ可能性を多くの方々に体験していただき、普及啓発をしていくことがさらなる交流を促進させ、地域コミュニティの活性化にもつながると考えております。

○坂井太委員 私は幼い頃から様々なタイトルのシューティングゲームやシミュレーションゲームをやり込みましたが、当時はゲームは1日1時間、ゲームをやりすぎではいけないと言われる時代でした。今ではそのネガティブなイメージよりもその効用にスポットが当たり、eスポーツやゲームを取り巻く環境も大きく変わりました。私も勝つための戦略を考えたり、コントローラーを指先で動かしたりすることは子供から高齢者まであらゆる世代の心身にほどよい刺激を与えるツールだと考えております。とはいうものの、現在でもそれが市民の皆様完全に受け入れられているかというところではない印象があります。ゲームに行政が取り組むことに対して否定的な考えをお持ちの方もおられるでしょう。

そこで、様々な機会を捉え、eスポーツに取り組む意義を市民の皆様伝えることも重要と考えますが、見解をお伺いします。

○足立にぎわいスポーツ文化局長 現在、市内におきましてeスポーツはまだ十分に活用していただけていないかなと思っております。このことから各区役所などを通じてeスポーツの普及啓発の機会の提供を働きかけ、今年度はそうしたイベントを11回実施いたします。普及啓発の場面では、eスポーツの体験だけではなくeスポーツが持

つ可能性に対する理解を深めていただくための企画展示なども行っております。今後も様々な機会を捉え、eスポーツの普及啓発に取り組んでまいります。

○坂井太委員 eスポーツは行政が取り組む分野としてまだまだ歴史の浅い分野と思いますが、それだけに様々な可能性を秘めた分野であるとも言えます。その可能性を引き出す今後の取組を期待して、私の質問を終わります。

ありがとうございました。

○小松範昭副委員長 ほかに御質問はございませんのでお諮りいたします。

にぎわいスポーツ文化局関係の審査はこの程度にとどめて、常任委員会に審査を委嘱し、政策経営局関係の審査を行いたいと思いますが、御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○小松範昭副委員長 御異議ないものと認めます。

よって、さよう決定いたしました。

○小松範昭副委員長 この際、60分間休憩いたします。

午後0時01分休憩

速報版